ヲ爲スコトヲ得ス

但組合ハ便宜ニ依リ所轄警察署ノ認可ヲ受ケ數區ヲ合併シテ一組トナスコトヲ得

第五十二條　各組合ニハ正副取締人各一名ヲ公撰シ所轄警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ組合ヲ設ケタルモノハ該分署ヲ經由縣廳ノ認可ヲ受クヘシ（二十年縣令第二十九號ヲ以テ割註ヲ加フ）（全上）

第五十三條　組合ニ於テ左ノ各項ニ從ヒ規約ヲ定メ所轄警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ組合ヲ設ケタルモノハ該分署ヲ經由縣廳ノ認可ヲ受クヘシ（全上）

一取締人撰擧法及任期權限

二取締所ノ位置

三正副取締人手當及取締所ノ費用豫算幷收支方法

四輓夫傭入傭止ニ關スル事項

五組合會議ニ關スル事項

六違約者處分方法

七前各項ノ外營業上必用ノ事項

第五十四條　左ノ各項ニ觸ルヽ者ハ取締人ニ撰擧スルコトヲ得ス

一年齡二十五年未滿又ハ組合區域內ニ相當ノ土地家屋ヲ所有セサル者

二人力車五輛以上所有セル者

但其際五輛以上ノ車ヲ所有スル者アラサルトキハ一輛以上所有者中ヨリ之ヲ撰擧スルコトヲ得

三營業上ニ關スル諸規則額ヲ解讀シ得ス又ハ算筆ヲ爲シ能ハサル者

四民事上身代限リノ處分ヲ受ケ未タ其辨償ノ義務ヲ果サヽル著

第五十五條　前條ノ資格ニ適合スト雖モ强窃盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人タルコトヲ得ス

其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第五十六條　取締人ニ於テ取扱フ可キ事項左ノ如シ

一人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ組合內營業者ヘ通告スル事

二私設駐車場ノ標識及ヒ賃錢表ニ烙印スル事
三組合營業者ノ願届ニ連署スル事
四營業者輓夫ノ名簿及車体番號簿ヲ製シ增減アル
毎ニ之ヲ事除整理スル事
五組合ニ關スル費用ノ收支及ヒ決算ヲ營業者ニ報
告スル事
六取締人撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事
七右之外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十七條　正副取締人任期中ト雖モ不都合ノ所爲等アリテ不適任ト認ムルトキハ臨時改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第八章　罰則

第五十八條　本則第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十六條第十八條第三項以下第三項ヲ除ク第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第四十條第四十一條第四十三條第四十五條第四十六條第四十九條第五十條ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ各其本法ニ從フ

附則

一從來ノ營業者ニシテ引續キ營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ願出鑑札幷ニ車体檢查證ヲ受クヘシ

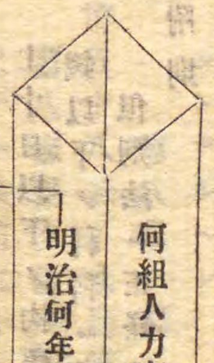
一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及ヒ規約ヲ設ケ且取締人ヲ撰擧シ認可ヲ受クヘシ

一從來ノ人力車ニシテ引續キ營業セントスル者第十八條第一項乃至第四項ニ抵觸スルモノト雖モ本則施行ノ日ヨリ二年以内ハ之ヲ使用スルコトヲ得

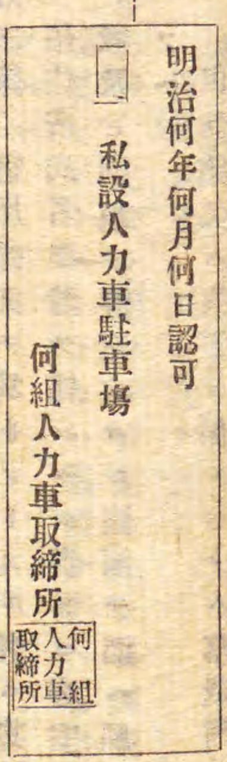
一從來ノ營業者ニシテ引續キ營業セントスルモノ第二十一條輓夫ノ服裝制限ニ抵觸スルモノト雖モ本

則施行ノ日ヨリ三ケ月以内ハ營業スルコトヲ得

官(私)有地等空地ニ私設スル駐車場ノ標識雛形



此標識ハ空屋等ノ私設駐車場入口等ノ見易キ所ヘ掲ケルモノトス



(參考)

○縣令第百十六號　明治二十年四月八日

來ル五月一日以後人力車ノ先輓キヲナサシントスルモノハ縣令第百八號ノ人力車營業取締規則第二十一條ニ準據シタル服裝ヲ爲シタルモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ禁ス

○宿屋取締規則

○縣令第百九號　明治二十年三月三十日

宿屋取締規則別冊ノ通相定メ來ル五月一日ヨリ施行

ス

（別冊）

宿屋取締規則

第一章　通則

第一條　宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條　宿屋營業上ニ關スル願届書ハ總テ組合取締ヘシ（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ制註ヲ加フ）ノ所轄警察署（警察署直轄ト分署所轄ト各別ニ組合ヲ設ケタル地ハ該分署）ヘ差出ス

但第五條第八條第十條第十八條第三十五條第三十九條第四十一條ノ諸届ニハ取締人ノ連署ヲ要セス

第三條　宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類並ニ族籍住所氏名年齢ヲ記シタル書面ニ客室用ノ建物坪數及ヒ間取ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ願出免許ヲ請フヘシ

但新築又ハ修繕ニ係ルモノハ落成期日ヲ豫定シ願書ヘ付記スヘシ

第四條　木賃宿營業ハ一定ノ場所ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

但其場所ハ別ニ之ヲ定ム

第五條　免許ヲ得タル宿屋ニシテ其間取坪數ヲ增減變更セントスルトキハ圖面ヲ添ヘ届出テ認可ヲ受クヘシ

第六條　營業者退隱又ハ死亡等シタルトキ引續キ營業ヲ爲サントスル者ハ其營業相續者ニ於テ三十日以内ニ願出免許ヲ請フヘシ

第七條　改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨届出ツヘシ

第八條　客室ノ新築模樣換又ハ修繕落成シタルトキハ届出テ檢查ヲ受クヘシ

第九條　左ノ各項ニ觸ルヽ者ハ免許ヲ與ヘス又營業免許ヲ得タル後ト雖モ第二項ニ觸レタルトキハ其一白痴瘋癲又ハ未丁年者ニシテ後見人ナキ者（二十年縣令第百三十六號ヲ以テ本條中又營業以下ノ三十三字追加）

二強窃盗及詐偽取財ノ罪ヲ犯シ處分ヲ受ケタル者
又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

第十條　三風俗ヲ紊ル可キ所爲アリト認ムル者
又ハ新築ニ係ルモノニシテ豫定期日内ニ落成セサ
ルトキハ其事由ヲ届出テ認可ヲ受クヘシ

第十一條　營業者ニ於テハ第九條ノ二項ニ觸ルヽ者
ヲシテ營業ニ關預セシムルコトヲ得ス

第十二條　宿屋ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ
夜中標燈ヲ以テ之レニ代フヘシ

第十三條　宿引ヲ出シ又ハ他人ト馴合客ヲ誘引スヘ
カラス

第十四條　宿泊人ノ許諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ
濫リニ室内ヘ入ラシムル可カラス

第十五條　賭博或ハ賣淫ニ類スル所業ハ勿論宿泊人
ノ依囑タリト雖モ藝娼妓又ハ酌取女等ヲ招聘ス可
カラス

第十六條　午後十二時ヲ過キ放歌喧噪等他客ノ安眠
ヲ妨クルノ事ヲ爲サシムル可カラス

第十七條　宿泊人疾病ニ罹リタルトキハ醫藥食物等
其求メニ應シ懇切ニ取扱フ可シ

第十八條　宿泊人變死ニ罹リ又ハ急病ニテ醫師ノ治
療ヲ受クル猶豫ナク死亡シタルトキ或ハ所持品ヲ
紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡査駐
在所若クハ巡行ノ巡査ヘ届出ツヘシ（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ巡査派出所ノ五字ヲ削リ居住所トアルヲ駐在所ト改ム）

第十九條　宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有
物ヲ受領スヘカラス

第二十條　宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ其求メニアラサ
ル酒食ヲ供シ又ハ强ユヘカラス

第二十一條　宿泊料其他宿泊人ニ關スル要件ハ帳場
及客室ニ掲示スヘシ

第二十二條　警察官吏ハ臨時宿泊人ヲ調査スルコト
アルヘシ

第二章　營業組合

第二十三條　營業者ハ所轄警察署分署ノ區畫ニ從ヒ組合ヲ設ク可シ其組合ニ入ラサル者ハ營業ヲ爲スコトヲ得ス

但組合ハ便宜ニ依リ所轄警察署ノ認可ヲ受ケ數區ヲ合併シテ一組トナスコトヲ得

第二十四條　營業者ハ組合中ヨリ正副取締人各壹名ヲ公撰シ且組合申合規約ヲ定メ所轄警察署（警察署直轄ト分署所轄ケタル地ハ該分署）ヲ經由シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ割註ヲ加フ）

但正副取締人其任ニ適セスト認ムルトキハ臨時改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條　取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一營業上ニ關スル諸規則命令ヲ組合營業者ヘ告示スル事

二組合營業者ノ願届書ニ連署スル事

三營業界ノ名簿ヲ製シ異動增減ヲ整理加除スル事

四組合ニ關スル經費ノ收支及ヒ決算ヲ報告スル事

五取締人撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事

六前各項ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第二十六條　營業者ハ其組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其收支方法ハ規約ヲ以テ定ムル者トス

第二十七條　組合規約ニ揭ク可キ事項左ノ如シ

一取締人撰擧法及ヒ任期權限

二取締所ノ位置

三組合會議ニ關スル規約

四取締人ヲ當及ヒ組合ニ關スル費用ノ豫算收支方法

五違約者處分方法

六前各項ノ外營業上必要ノ事項

第二十八條　左ノ各項ニ觸ルヽ者ハ正副取締人ニ撰擧スルコトヲ得ス

一年齡二十五年未滿又ハ組合區域內ニ相當ノ土地家屋ヲ所有セサル者

二營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ得ス又ハ筆算ヲ爲シ能ハサル者

三民事上身代限ノ處分ヲ受ケ未タ其辨償ノ義務ヲ果サヽル者

第三章　旅人宿

第二十九條　旅人宿ハ十坪以上ノ客室ヲ有スル家屋ニ於テ營業ヲスルモノニ限ルヘシ

但シ僻陬ノ村落ニ於テハ土地又ハ家屋ノ摸樣ニ由リ本條及ヒ第三十條各項ノ制限ニ拘ハラス特ニ營業ヲ允許スルヿアルヘシ

第三十條　客室ノ構造ハ左項ニ從フヘシ

一客室毎ニ堅固ナル錠前付ノ押入又ハ戸棚ヲ設クル事

二二階以上ノ客室十坪以上アルモノハ幅三尺ニ下ラサル階子二個以上ヲ設クル事

三客室ハ充分ニ光線ヲ取リ空氣ノ流通ヲ便ニスル事

四便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル箇所ニ設ケ屎尿容器ハ陶器製ヲ用ヒ且其部分ハ石敲キニスル事

但構造上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第三十一條　便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第三十二條　客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス

但同行者ハ此限ニアラス

第三十三條　正當ノ事由ナクシテ旅客ノ宿泊ヲ拒絶スヘカラス

第三十四條　宿泊人ヨリ荷物ノ送屆又ハ積入等ノ委托ヲ受ケ之レカ周旋ヲ爲スハ固ヨリ差支ナシト雖モ運送營業ニ紛ハシキ所業ヲ爲スヘカラス

第三十五條　宿泊人ノ發着ハ書式ニ準シ毎日午後十二時迄ニ同十二時後ノ分ハ翌日午前九時迄ニ所轄警察署分署又ハ巡査駐在所ヘ差出スヘシ（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ派出以下十六字ヲ駐在所ト改ム）

但別ニ名簿ヲ製シ宿泊人發着等書式ニ準シ記入シ該名簿ハ一ケ年間保存スヘシ

第四章　下宿屋

第三十六條　下宿屋トハ一ケ月賄料若クハ座敷料等ノ約定シテ他人ヲ寄寓セシムモノヲ云フ

第三十七條　下宿屋トハ五坪以上客室アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

第三十八條　本則第三十條ノ各項ハ下宿屋ニモ亦之ヲ適用ス

第三十九條　下宿屋ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ノ族籍住所職業氏名年齢及ヒ下宿ノ事由ヲ記シタル届書正副二通ヲ所轄警察署分署又ハ巡査駐在所ヘ差出シ其一通ヘ受理ノ檢印ヲ受ケ之ヲ保存スヘシ（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改正削除）

第四十條　下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ヘ掲示スヘシ

第四十一條　下宿人他ヘ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其行先不分明ナルトキハ所轄警察署分署又ハ巡査駐在所ヘ届出ツヘシ（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改刪）

第五章　木賃宿

第四十二條　宿泊人發着届出方等ハ第三十五條ノ例ニ從フヘシ

第四十三條　宿泊人ノ滯在中外泊シタルトキハ詳細其事由ヲ名簿ニ記載シ置ク可シ

第六章　罰則

第四十四條　本則第三第五條第六條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第三十一條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條ニ違背シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

一本則ニ該當スル從來ノ宿屋及ヒ下宿屋ニシテ引續キ營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以

内ニ第三條ニ據リ出願免許ヲ請フヘシ

一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及ヒ規約ヲ設ケ且取締人ヲ撰擧シ認可ヲ受クヘシ

一客室ノ搆造第三十條ニ觸ルヽモノト雖モ本則施行ノ日ヨリ六ケ月以内ハ營業スルコトヲ得

一客室ノ坪數第二十九條及第三十七條ニ觸ルヽ者ト雖モ本則施行ノ日ヨリ一ケ年以内ハ營業スルヿヲ得

一一定ノ場所外ニアル木賃宿ト雖モ本則施行ノ日ヨリ一ケ年以内ハ營業スルヿヲ得

（此名簿ハ其年一月一日ヨリ十二月三十一日マテノ分ヲ壹冊又ハ數冊トナシ毎年之ヲ改正シ前年分ハ滿壹ケ年間之ヲ保存スルモノトス用紙寸法適宜）

明治何年一月ヨリ

宿泊人發着名簿

滋賀縣近江國何郡何町村何番地

何屋屋號アルモノハ其屋號ヲ掲ク　何某

宿泊人番號	第何號
投宿月日時	明治何年何月何日午前（後）第何時
前夜宿泊所	何府縣何國何郡區何町村何番地何誰方（又ハ何々）
出立月日時	明治何年何月何日午前（後）第何時
行先地名	何府縣何國何郡區何町村何番地何誰方（又ハ何々）
相貌ノ別徴	額上ニ何寸許ノ刀傷痕アリ（又ハ何々）
住所	何府縣何國何郡區何町村何番地
身分	華士族平民（又ハ神官僧侶等ノ別）
職業	何々
氏名年齢	何某　何十何年何ヶ月

竪曲尺三尺横同七寸厚サ幷ニ木質適宜

明治何年何月何日免許

口旅人宿（下宿屋 木賃宿）　屋號　氏名

用紙寸法適宜

明治何年何月何日　宿泊人屆　何郡何町村何番地族籍　何屋（屋號アルモノハ屋號ヲ掲ク）　何某（印）

宿泊人番號　第何號

投宿月日時　何月何日午前（後）第何時

住所　何府縣何國何郡區何町村何番地又ハ（何々方同居）

身分　華士族平民（又ハ神官僧侶又ハ何々）

職業　何職又ハ何々（官吏ナレハ奉職廳及ヒ官名ヲ記ス）

氏名年齢　何某何年何ケ月

前夜宿泊所氏名　何府縣何國何郡區何町村何番地何某方

宿泊ノ事由　何々ノ爲メ

行先地名氏名　何府縣何國何郡區何町村何番地何某方（又ハ歸宅）

相貌別徴ノ有無　額上ニ刀傷痕又ハ何々部ニ黒子アリ（又ハ何々）

（仝上）

明治何年何月何日　宿泊人出立屆　何郡何町村何番地族籍　何屋（屋號アルモノハ其屋號ヲ掲ク）　何某（印）

宿泊人番號　前日投宿シタルモノヽ番號ヲ掲ク

氏名　前日宿泊シタルモノヽ氏名

出立月日時　何月何日午前（後）第何時

行先地名	何府縣何國何郡區何町村何番地何某方（又ハ歸宅）
同上	同上
同上	同上
同上	同上
同上	同上

（參考）

○告示第五十三號　明治二十年三月三十日

縣令第百九號宿屋取締規則第一章第四條ノ木賃宿營業場所左ニ示ス

滋賀郡上片原町、下片原町、大谷町、追分町、藤尾村ノ内字横木、衣川村、北小松村

栗太郡草津村ノ内字横町南裏

野洲郡吉身村ノ内字ハイアカリ

甲賀郡水口村ノ内字片町、松原町、林口村ノ内字門ノ外

石部村ノ内字繩手町、東清水町、土山村ノ内字瀧町中ノ街道

滋生郡繩手町、長光寺ノ内字横町、武佐村ノ内字鳥居前、石原村

神崎郡八日市村ノ内字堂ノ森

愛知郡愛知川村ノ内字繩手

坂田郡西三ッ矢町、郡上町、春照村、柏原村、醒井村、番場村ノ内字番場鳥居本村、米原村

東淺井郡速水村ノ内字北町、郡上村ノ内字町間第四百五十五番地ヨリ以北両側

伊香郡木ノ本村ノ内字十善寺、柳ヶ瀬村ノ内字北大門

西淺井郡鹽津濱村ノ内字東ノ内千五十番地以東

高島郡海津町ノ内字中村町、保坂村、今津村ノ内字北濱、安井川村ノ内字下市、古屋村

○運送營業取締規則別冊ノ通相定來五月一日ヨリ施行ス

○縣令第百十號　明治二十年三月三十日

（別冊）

運送營業取締規則

第一章　總則

第一條　運送營業トハ水陸運送請負及廻漕人馬繼立幷ニ小飛脚ヲナスモノヲ云フ

第二條　前條ノ營業ヲナサントスルモノハ組合取締人ノ連署ヲ要シタル書面ヲ以テ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

但支店若クハ取扱所ヲ設ケ又ハ廢業代換改名轉居等ノ節ハ本條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第三條　營業人ハ左ノ割合ニ依リ身元金ヲ組合取締所ヘ差出スヘシ

但支店ノ身元金モ本條ニ準ス

一ケ年營業取扱金高貳千圓以上　身元金百　圓

同　千　圓以上同　七拾圓

同　五百圓以上同　五拾圓

同　三百圓以上同　三拾圓

同　貳百圓以上同　貳拾圓

第四條　身元金ハ開業出願ノ際差出其金額ヲ願書ニ記載スヘシ　貳百圓未滿同　拾圓

第五條　身元金ハ廢業又ハ免許ノ効ヲ失ヒタルトキハ之ヲ還付ス

第六條　身元金ハ營業上ニ關シ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ其辨償ニ充用セラルヘシ

ルトキハ其辨償ニ充用セラルヘシ

第七條　身元金ニ欠額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ之ヲ完納スヘシ其欠額ヲ納メサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フヘシ

第八條　營業人開業免許ヲ受ケタルトキハ組合取締所ヘ申出營業鑑札ヲ受クヘシ

但營業鑑札ハ賣買貸借スヘカラス

第九條　營業鑑札ハ毎年二月組合取締所ノ檢印ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ無效トス

第十條　營業鑑札ヲ毀失シ又ハ代換改名轉居等ノ節ハ書換又ハ再渡ヲ乞フヘシ

但廢業又ハ組合ヨリ除名セラレタル時ハ返還スヘシ

第十一條　營業人ハ組合取締所ノ檢印ヲ押捺シタル業名標ヲ店頭ニ揭示スヘシ

第十二條　營業人ハ組合ニ係ル費用ヲ負擔スヘシ

第十三條　營業人ハ組合規約ニ定ル賃錢手數料等ノ外要求スヘカラス且其定額ハ衆人ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十四條　營業人ハ米質改良組合取締規則及組合規約ニ違背セル米穀運送ノ委托ヲ受クヘカラス（二十縣令第百三十七號ヲ以テ追加）

第十五條　營業人ハ運送物ニ不審ト見認ムルモノア

ル時ハ警察官吏ニ密告スヘシ

第二章　營業組合

第十六條　營業人ハ一ノ組合ヲ設クヘシ其組合ニ入ラサルモノハ運送營業ヲナスコトヲ得ス

第十七條　營業人ハ滋賀郡大津便宜ノ地ニ組合取締所ヲ設ケ又取締上必要ノ地ニ出張所ヲ設クヘシ

第十八條　取締所ニ正副取締人各一名出張所ニ副取締人一名宛ヲ撰置シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但便宜地區ヲ定メ總代人ヲ置クコトヲ得

第十九條　組合ニ於テハ左ノ各項ニ從ヒ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

一取締所及出張所ノ位置

一取締人撰舉法及任期

一取締人事務條項及權限

一組合ニ係ル費用ノ豫算及徵收方法

一組合會議ニ關スル規程

一諸賃錢手數料等ノ定額

一身元保管法
一物貨取扱法
一傭人及稼業人ニ關スル規程
一損害辨償ノ方法
一違約者處分法
一前各項ノ外營業上必要ノ件

第二十條　取締人ハ丁年以上ノ男子ニシテ縣下ニ本籍ヲ有シ且ツ名望ト相當ノ財產ヲ有スル者タルヘシ

第二十一條　取締人被撰者中適任ノ者乏シキカ又ハ撰任後不適任ト見認ルトキハ改撰ヲ命ス

第二十二條　取締人ニ於テ取扱フヘキ事項概ヲ左ノ如シ

一組合營業人ノ願届書等ニ連署スル事
一組合營業人名簿ヲ製シ增減異動アル毎ニ訂正加除スル事
一組合營業人ヘ費用ノ決算報告ヲナス事
一運送營業上ニ關シ意見ヲ縣廳ヘ具申スル事
一違約者ヲ處分スル事
一前各項ノ外取締上ニ關スル一切ノ事務及組合規約ニ於テ定メタル事項ヲ取扱フ事

第三章　運送請負營業

第二十三條　運送物ノ荷造粗造ニシテ運送中濡沾漏脫等ノ難ヲ防ク能ハサルト思慮スル時ハ荷主ヲシテ改造セシムヘシ

第二十四條　送狀ヲ添付セサル運送物ハ取扱フヘカラス又送狀ニハ左ノ各項ヲ詳記セシムヘシ

一荷主及届先ノ住所姓名並ニ差出年月日
一物品ノ種類價格及個數斤量
一賃錢ノ拂方（前拂先拂等）及運送方（馬車便滊船積和船積等）ノ區別
前各項ノ外運送上必要ノ件

第二十五條　運送物ヲ受取タルトキハ前條ニ倣ヒ詳記シタル受取証ヲ渡スヘシ

第二十六條　運送物他ヨリ到着セシ時ハ損害ノ有無

等ヲ點檢シ若シ異狀アリト思慮スルモ外面ヨリ認メ難キトキハ組合役員ノ檢査ヲ經其事由ヲ記シタル書面ニ証印ヲ受ケ送狀ニ添付發送スヘシ

第二十七條　到着セシ運送物ニ損害アル時ハ組合役員ノ檢査ヲ受ケ其狀況ヲ詳記シタル書面ニ証印ヲ受ケ添付發送スヘシ

第二十八條　組合役員ニ於テ前條檢査ヲナシタルトキハ其繼越タル地ノ組合役員ヘ急報スヘシ其急報ヲ受ケタル組合役員ニ於テハ速ニ其事由ヲ取調差立元營業人及荷主ヘ發送スヘシ

第二十九條　營業人ハ各一樣ナル繼立帳ヲ製シ運送物ノ種類員數價格賃錢發着時刻及損害ノ有無等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第三十條　荷物ノ運送ハ送狀ニ記シタル區別ニ從ヒ取扱フヘシ

但別段荷主ノ承諾ヲ經テ變更スルハ此限ニアラス

第三十一條　前各條ノ外別段成規アルモノハ其成規ニ從フヘシ

第四章　廻漕營業

第三十二條　荷物ノ積卸及廻漕中濡沾破損等之レナキ樣丁寧ニ取扱フヘシ

第三十三條　廻漕中荷主ノ承諾ヲ經スシテ他ノ營業人ト荷替ヲナスヘカラス

第三十四條　營業人ハ陸路運送ノ依托ヲ受クヘカラス

第三十五條　廻漕中他船ト速力ヲ競爭シ其他危險ノ所業ヲナスヘカラサルハ勿論暴風等ノ節ハ廻漕ヲナスヘカラス

第三十六條　荷物ノ運送ハ送狀ニ記シタル區別ニ從ヒ取扱フヘシ

但別段荷主ノ承諾ヲ經タルモノハ此限ニアラス

第三十七條　營業人ハ各一樣ナル帳簿ヲ製シ運送物ノ種類員數價格賃錢及受授ノ時日等ヲ記載シ後日

ノ憑據ニ供スヘシ

第三十八條　本章ニ掲クル外第三章第二十二條第二十三條第二十四條第三十條ヲ遵守スヘシ

第五章　人馬繼立營業

第三十九條　營業人ハ各一樣ナル繼立帳ヲ製シ繼立ノ都度賃錢及繼立地名並ニ稼業人ノ姓名等ヲ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第四十條　謂レナク繼立ヲ拒ミ又ハ故ナク遲緩スヘカラス

第四十一條　繼立ニ使用スル人足ヘハ營業人ヨリ其雇入タルノ証票ヲ渡シ之ヲ携帶セシムヘシ

第四十二條　繼立ノ順序ハ急行ヲ除クノ外申込ノ前後ニ從フヘシ

第四十三條　人足途中ニ於テ荷物ニ損害ヲ與フル等ノ事アル時ハ營業人其責ニ任スヘシ

第六章　小飛脚營業

第四十四條　營業人ハ平素運送スル地名ヲ組合取締所ヘ屆出且重ナル地名ヲ業名標ニ記入スヘシ

第四十五條　營業人ハ各地繼立ヲ要スル荷物ノ運送請負スヘカラス

第四十六條　荷物ノ受渡ハ必ス帳簿ニ記載シ後日ノ憑據ニ供スヘシ

第四十七條　平素發送時日ヲ定メオクモノハ必ス其日時ニ發送スヘシ

第四十八條　發送ノ途中他ノ營業人ノ荷替ヲナスヘカラス

第四十九條　業營ヒニ使用スル雇人ノ姓名年齡等ハ組合取締所ヘ屆置クヘシ

第七章　罰則

第五十條　此規則第二條第三條第八條第十條第十一條第十三條第十四條第二十九條第三十條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十九條第四十條第四十一條第四十四條第四十五條第四十六條第四十八條第四十九條ニ違背スルモ

ノハ違警罪トシ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス（二十年縣令第百三十七號ヲ以テ改正）

附則

一從來ノ營業者ニシテ引續營業セントスル者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ願出許可ヲ受クヘシ

一本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ組合及規約ヲ設ケ且取締人ヲ擇擧シ認可ヲ受クヘシ

竪曲尺三寸横同七寸厚並ニ木質適宜

口何々營業　住所
　　氏名

竪曲尺四寸横同三寸紙質適宜

表

年月日
何々營業鑑札
滋賀縣運送營業取締所

取締所焼印

取締所印

滋賀郡近江國何郡何町村
何番地
何某

明治何年
何月何日

取締所檢印

新聞紙雜誌雜報受賣取締　威銃免許取締規則

○新聞紙雜誌雜報受賣取締

○縣令第四十六號　明治二十一年二月二十四日

新聞紙雜誌雜報ノ發賣又ハ受賣營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名及ヒ其新聞紙ノ種類ヲ記載シ開業三日以前ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ若シ其種類ノ增減スルカ又ハ轉居廢業等爲シタルトキハ仝樣届出ヘシ

從前營業者ニシテ猶繼續營業セントスル者ハ十日以内ニ前仝樣届出ヘシ

右違犯ノ者ハ刑法第四百二十七條ノ刑ニ處ス

○威銃免許取締規則

○甲第五十三號　明治十一年九月二十一日

本年三月甲第十一號ヲ以銃砲臨時免許取締規則相達候儀ハ山林田野植物保護ノ爲メ有害ノ鳥獸驅逐スルノ趣意ニ候處往々實地有害ノ輕重ニ論ナク只管實彈ヲ願出ルモノ多ク自然獵銃ニ紛敷等ノ弊有之候テハ不都合ニ付今般右規則相廢シ更ニ威銃免許取締規則別冊ノ通相設候尤實彈ノ儀ハ有害ノ景況不得止分ニ限リ免許スル義ニ付猥リニ實彈願出候共決シテ許可不致候條此旨布達候事

但目今免許濟ノ分ハ期限內其儘相用苦シカラス

（別冊）

威銃免許取締規則

第一條　空砲ヲ發シ田野山林等ノ植物ヲ害スル鳥獸ヲ驅逐スルヲ威銃ト云フ其免許ヲ得ント欲スルモノハ有害ノ實況及願人住所氏名年齡並ニ用銃ノ口徑等ヲ詳記シ町村長奧印ノ願書ヲ以テ所轄警察署ヘ分署ヘ差出シ免許鑑札ヲ受クヘシ免許ヲ受ケス

但家莊又ハ雇人ヲシテ發砲セシメントスルトキハ其ノ主ヨリ願出ツヘシ

第二條　若シ空砲ヲ以テ驅逐スルヿ能ハス據ナク實彈ヲ以テ殺除セントスルモノハ其實況ヲ詳記シ場所ヲ指定シ前條ノ手續ヲ以テ所轄警察署ヘ願出ヘシ實地審查ノ上相當ノ期限ヲ定メ臨時免許鑑札ヲ下付スヘシ免許ヲ受ケス實彈ヲ發スルヿヲ許サス（全上）

但滿期ノモノハ戶長奧印ノ屆書ヲ以テ速カニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第三條　免許鑑札ハ一人一己ノ用ヲ爲スモノニ付子弟又ハ雇人等ヲシテ發砲セシメント欲スルモノハ出願ノ際其肩書氏名年齡ヲ詳カニシテ願書ニ連署捺印セシムヘシ調查ノ上一々免許鑑札ヲ付與スヘシ

第四條　免許鑑札所持ノモノ居所移轉スレハ該鑑札書換願出スヘシ若シ死亡スレハ速カニ返納スヘシ

第五條　免許鑑札ハ賣買又ハ貸借スルヿヲ許サス

第六條　水火盜難其他事故ニ依リ免許鑑札ヲ毀失スルトキハ戶長ニ屆出ツヘシ

第七條　銃砲ヲ失フヿ再度ニ及フトキハ其ノ事由ヲ詳記シ書換又ハ再渡ヲ乞フヿヲ得ス

第八條　免許鑑札ヲ失フモノハ前項ノ外尚未所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第九條　第三條十六歲未滿ノモノハ免許ヲ受ケルヿヲ得ス

第十條　免許期限中更新ヲ得ントスル者ハ期限滿了ノ時ヨリ十日ノ內ニ其手續ヲ爲スヘシ

第十一條　第十條ノ期限ヲ過キテ更新ヲ請フ者ハ新ニ免許ヲ受ケルヿヲ得ス

第十二條　第十條ノ期限ヲ過キテ更新ヲ請フ者ハ新ニ免許ヲ受ケルヿヲ得ス

（二十二年縣令第百二十二號ヲ以テ改正）

ル片ハ其事由ヲ以テ更ニ免許鑑札ヲ願受クヘシ

第七條　空砲實彈ノ別ナク明治十年第十一號公布鳥獸獵規則第七條ニ記列シタルモノハ免許鑑札ヲ付與セサルハ勿論左ニ記列スル場所ニ於テハ實彈ヲ發スルヿヲ許サス

一市街ハ勿論衆人群聚ノ場所

一銃丸ノ達スヘシ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所及ヒ社寺人家等ノ搆内

一禁獵制札ノ場所

一日沒ヨリ日出マテノ時間

一指定スル免許場所ノ外

第八條　和銃ハ玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍用銃ヲ用ルヲ許サス

第九條　發砲ノ爲メ山野ニ出ルヤハ必ス免許鑑札ヲ携帶スヘシ若シ鑑札ヲ看シト請フ者アルヤハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十條　此規則第一條第五條ニ違背スル者ハ違警罪ト同ノ例ニ照シ處分ス

第十一條　此規則ニ記載スル外發射ノ免許鑑札ニ關スル事項ハ本則改正以前ニ於ケル例ニ從フ

第十二條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第十三條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第十四條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第十五條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第十六條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第十七條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第十八條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第十九條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十一條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十二條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十三條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十四條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十五條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十六條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十七條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十八條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二十九條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十一條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十二條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十三條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十四條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十五條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十六條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十七條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十八條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第三十九條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十一條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十二條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十三條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十四條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十五條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十六條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十七條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十八條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第四十九條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十一條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十二條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十三條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十四條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十五條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十六條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十七條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十八條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第五十九條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十一條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十二條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十三條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十四條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十五條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十六條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十七條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十八條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第六十九條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十一條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十二條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十三條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十四條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十五條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十六條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十七條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十八條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第七十九條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十一條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十二條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十三條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十四條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十五條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十六條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十七條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十八條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第八十九條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十一條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十二條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十三條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十四條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十五條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十六條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十七條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十八條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第九十九條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第百條　此規則ハ明治十年第十一號公布ノ本則改正以前ニ發シタル免許鑑札ニ關スル事項ニ限リ其效力ヲ有スル期間ニ於テ之ヲ施行ス

第二條　屠場ヲ新設セントシ又ハ別紙書式ニ照準シタル願書ニ（借地ナラハ其地主連署シ）接續地主ノ承諾書及其位置並ニ構造ノ各圖面工事仕樣書ヲ添ヘ所管警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其地所構造ヲ增減變換セントスルトキモ亦同シ（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ挿入改正）

但單ニ建物ノ變換ニ係ルモノハ地主ノ連署及承諾書並ニ位置ノ圖面ヲ要セス

第三條　屠場ヲ讓渡シタルトキハ讓受人（借地ナラハ其地主トモ）連署ノ書面ヲ以テ直チニ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ屆出ヘシ（全上）

第四條　改氏名轉居代替廢業等ノ節ハ其都度所管警察署（署ノ字挿入）又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ屆出ヘシ（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ（又ハ分署）ノ四）

第五條　屠場ノ位置構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一　屠場ノ位置ハ最近ノ人家ヲ距ルコト直徑六十間以上ニシテ道路ニ沿ハス河川ニ接セス且飲料水ニ障害ナキ地ニ限ルヘシ

二　屠場ハ三百坪以上ノ地ニシテ水ノ供給充分ナルヲ要ス

三　屠場ノ周圍ニハ高サ六尺以上ノ土手又ハ墻塀木柵等ヲ設クヘシ

四　屠場内ニハ屠室屠畜繫留所檢查官詰所及相當ノ構造ヲ要シタル雨便所等ヲ設クヘシ

五　屠室ハ地盤ニ石ヲ敷設シ「セメント」ニテ其繼目ヲ密接シ石又ハ漆喰敵ヲ以テ汚物溜ニ通スル溝ヲ設クヘシ其內部ノ周圍ハ石造煉瓦造ニ係ルモノヽ外厚板ヲ張リ亞鉛板ヲ以テ之レヲ蔽ヒ屋上ニハ空氣ノ放散スヘキ裝置ヲナシ周圍ノ上下ニ數箇ノ窓ヲ設ケ以テ光線ノ射入空氣ノ通暢ヲ能クスヘシ

六　屠畜繫留所ノ地盤ハ前項ニ準シテ構造シ其糞尿等ハ糞尿溜ニ通セシムヘシ

但地盤ハ厚サ二寸以上ノ漆喰敵トナスモ妨ナ

シ汚物溜糞尿溜ハ磁器ノ類ヲ用ヰ若クハ周圍底面
ハ厚サ二寸以上ノ漆喰敲其他不滲透質ノモノ
ヲ以テ之ヲ構造シ底面ハ中心ニ向テ勾配ヲ付シ
且相當ノ屋壁若クハ覆蓋ヲ設クヘシ
第六條　前條構造落成ノ上ハ所管警察署又ハ分署ニ
屆出檢査ヲ受クヘシ檢査ノ上許可ヲ與フルニ非サ
レハ使用スルヲ得ス（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ（又ハ分署）ノ四字挿入）
第七條　屠場ノ入口ニハ左ノ雛形ノ看板ヲ掲クヘシ

何郡何町村
何番字何
屠場
口
明治何年何月何日免許　何郡何町村　何番屋敷
氏名

用材適宜
竪四尺
横一尺

第八條　屠場ハ日々掃除シ屠室及溝筋ハ屠殺終リタ
ル毎ニ洗淨ス可シ
第九條　臟腑皮骨ノ類及血液汚水汚物ノ類ハ其都度
之ヲ取除クヘシ
第十條　免許ヲ得タル屠場ト雖モ實際障害アルヲ發
見シタルトキ又ハ改作修繕ノ命ニ從ハサルトキハ使
用ヲ停止スルコトアルヘシ
第十一條　屠場主ハ屠殺ノ前日其種類頭數牝牡及買
入先キ等ヲ記シ且屠畜稅金納濟ノ証ヲ添付シ所管
警察署又ハ分署ヘ屆出檢査ヲ受クヘシ（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ（且屠畜以下添付シマテノ十三字挿入）
第十二條　屠殺シタル獸肉ニハ檢査官ニ就テ檢査濟
ノ印記ヲ受クヘシ
第十三條　屠殺シタル肉ヲ屠場外ニ運搬スルトキハ
清潔ナル麻布等ニテ包ミ之ヲ暴露セシムヘカラス
第十四條　檢査官ニ於テ病獸又ハ食用ニ害アリト認
メタル肉ハ其屠殺若クハ販賣ヲ禁止スルコトアル

ヘシ

但販賣禁止ニ係ルモノヽ處置ハ撿査官ノ指圖ニ從フヘシ

第十五條　屠場營業人ハ屠畜ノ種類ニ依リ其屠殺料ノ額ヲ定メ豫メ所管警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クベシ其增減ヲ要スルトキモ亦同シ（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ（又ハ分署）ノ四字挿入）

第十六條　屠場營業人ハ何人ノ需メト雖モ正當ノ事故ナクシテ屠殺ヲ拒ムコトヲ得ス

第十七條　屠場ニ於テハ牛馬羊豚ヲ除クノ外他ノ獸類ヲ屠殺シ及斃獸ヲ剖割スルコトヲ禁ス

第十八條　第二條第三條第四條ノ願屆等ニハ屠場所在地戸長ノ奥印ヲ受クヘシ（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ第四條ノ下（第六條トアル三字刪除）

第十九條　此規則第一條第二條第三條第四條第六條第八條第九條第十一條第十二條第十三條第十五條第十六條第十七條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス

（別紙）願書式

屠場新設願

何郡何町村何番字何　何郡何町村何番屋敷

一何地反別何程　持主　氏　名

但最近ノ人家ヲ距ル直徑何十何間

右ノ地所ニ於テ屠場新設仕度候間御撿査ノ上御免許被成下度別紙接續地主ノ承諾書及位置幷ニ構造ノ各圖面工事仕樣書相添此段奉願候也

年號月日　何郡何町村何番屋敷

願人　氏　名印

何郡何町村何番屋敷

地主　氏　名印

滋賀縣知事氏名殿

○飼養ノ牛馬斃死セルトキ取扱方

○縣令第百五十八號　明治二十一年十一月十三日

飼養ノ牛馬斃死セルトキ其取扱方左ノ通相定ム

一斃牛馬ヲ剖割營業者ニ付セント欲スルトキハ該營

業者ノ住所氏名及斃獣ノ種類牝牡毛色等ヲ詳記シ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

一飼主ニ於テ之ヲ焼埋却セント欲スルトキハ戸長ノ指圖ヲ受ケ相當ノ場所ヲ撰ミ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出検査ヲ受クヘシ但其剖割シタル肉ハ検査官ノ面前ニ於テ細截シ綠礬水ニ浸漬スヘシ

右ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス

○斃牛馬剖割營業取締規則

○縣令第百七十二號　明治二十年八月十六日

斃牛馬剖割營業取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ施行ス

斃牛馬剖割營業取締規則

第一條　斃牛馬ヲ剖割シテ營業トナサント欲スル者ハ別紙書式ニ照準シタル願書ニ（借地ナラハ其地主ノ承諾書及剖割場ノ位置並ニ構造ノ各圖面工事仕樣書ヲ添ヘ所管警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其地所構造ヲ増減變換セントスルトキモ亦同シ（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ本條中挿入改正）

但單ニ建物ノ變換ニ係ルモノハ地主ノ連署及承諾書並ニ位置ノ圖面ヲ要セス

第二條　剖割場ヲ讓渡シタルトキハ讓受人（借地ナラハ其地主トモ）連署ノ書面ヲ以テ直チニ所管警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ改正挿入）

第三條　改氏名轉居代替廢業等ノ節ハ其都度所管警察署及ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ（全上）

第四條　剖割場ノ位置構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一剖割場ノ位置ハ最近ノ人家ヲ距ルコト直徑六十間以上ニシテ道路ニ沿ハス河川ニ接セス且飲料水ニ障害ナキ地

二敷地ノ周圍ニハ墻塀等ヲ設クヘシ

三剖割場ハ其地盤ヲ厚サ二寸以上ノ漆喰敲トシ且汚水溜ニ通スル溝ヲ設クヘシ其内部ノ周圍ハ厚板ヲ張リ之ニ（ペンキ）ヲ塗ルヘシ

四汚水溜ハ剖割場ニ使用シタル一切ノ汚水ヲ受ク

ル所ニシテ磁器ノ類ヲ用ヰ若クハ周圍底面トモ厚サ二寸以上ノ漆喰敲其他不滲透質ノモノヲ以テ之ヲ構造シ且相當ノ覆蓋ヲ設クヘシ

五　汚物ヲ容ルヘキ相當ノ器具ヲ備フヘシ

六　相當ノ構造ヲナシタル撿査官ノ臨監場及両便所ヲ建設スヘシ

第五條　前條ノ構造落成ノ上ハ所管警察署又ハ分署ニ届出撿査ヲ受クヘシ撿査ノ上許可ヲ與フルニ非レハ使用スルヲ得ス（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ改正）

第六條　剖割場ノ入口ニハ左ノ雛形ノ看板ヲ掲クヘシ

何郡何町村何番屋敷
何郡何町村何番字何
口斃牛馬剖割場
明治何年何月何日免許
何郡何町村
何番屋敷
氏名

用材適宜
竪四尺
横一尺

第七條　剖割場ノ内外ハ掃除洗滌ヲ怠ラス臭氣ノ放散セサル樣嚴ニ注意スヘシ

第八條　免許ヲ得タル剖割場ト雖モ實際障害アルヲ發見シタルトキ又ハ改作修繕ノ命ニ從ハサルトキハ使用ヲ停止スルコトアル可シ

第九條　斃牛馬ヲ剖割セント欲スルトキハ其飼主ノ住所氏名ヲ具シ所管警察署又ハ分署ニ届出撿査ヲ受クヘシ

第十條　剖割シタル斃牛馬ノ肉ハ撿査官ノ面前ニ於テ直ニ之ヲ細截シテ綠礬水ニ浸漬スヘシ

但緣碧水缺乏ノ場合ニ於テハ熱湯ニ浸漬スヘシ

第十一條　斃牛馬ノ肉ヲ食用ノ爲メ販賣スルコトヲ禁ス

第十二條　免許ヲ得サル場所ニ於テ斃牛馬ヲ剖割スルコトヲ禁ス

第十三條　傳染病ニ罹リテ斃死シタル牛馬ヲ剖割スルコトヲ許サス

第十四條　第一條第二條第三條ノ願届等ニハ剖割場所在地戸長ノ奥印ヲ受クヘシ（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ第三條ノ下第五條ノ下ニアル三字ヲ削ル）

（削除）

第十五條　此規則第一條第二條第三條第五條第九條第十一條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス

（別紙）

願書式

斃牛馬剖割營業願

何郡何町村何番字何

一何地反別何程

但最近ノ人家ヲ距ル直徑何十何間

右ノ地所ニ於テ剖割場取設ケ斃牛馬剖割營業仕度候間御檢査ノ上御免許被成下度別紙接續地主ノ承諾書及位置幷ニ搆造ノ各圖面工事仕樣書相添此段奉願候也

年號月日　何郡何町村何番屋敷　持主　氏名

何郡何町村何番屋敷　願人　氏名印

何郡何町村何番屋敷

滋賀縣知事氏名殿

地主　氏名印

○牛馬宿又ハ飼養營業願出方

○甲第八十六號　明治十九年六月二日

市街ニ於テ營業ノ爲メ牛馬ヲ飼養シ又ハ牛馬宿ヲ營業セントスル者ハ其位置幷ニ搆造等ノ圖面及四隣接續地主ノ承諾証ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ（二十二年縣令第六十一號ヲ以本令中刪除）

但現ニ本文ノ營業ヲ爲スモノハ來ル三十日迄ニ屆出許可ヲ受クヘシ

○獸肉販賣取締規則

○縣令第百七十三號　明治二十年八月十六日

獸肉販賣取締規則左ノ通相定メ來ル十一月一日ヨリ施行ス

獸肉販賣取締規則

第一條　此規則ニ稱スル處ノ獸肉トハ食用ニ供スル牛馬羊豚ノ諸肉ヲ云フ

第二條　獸肉ヲ販賣セント欲スルモノハ所管郡役所ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但屠場營業人ト雖モ其肉ヲ販賣セント欲スルトキハ此規則ニ據ルヘキハ勿論トス

第三條　獸肉販賣營業者ハ左ノ雛形看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

免許鑑札ノ番號ヲ記載スヘシ

第何號

○牛（馬）（羊）（豚）肉販賣營業

何郡何町村　何番屋敷

氏名

用材檜
竪三尺
横七寸

第四條　前條營業者行商セント欲スルトキハ所管郡役所へ願出行商鑑札ヲ受ケ行商ノ節ハ必ス携帯シ露店ヲ出ストキハ之ヲ店頭ニ表出スヘシ

但家族雇人等ヲシテ行商ヲ爲サシムル者ハ本文ノ手續ニ據リ各自ニ鑑札ヲ受クヘシ

第五條　飲食店等ニ於テ生獸肉ヲ其儘販賣スル者ハ第二條ニ據リ免許鑑札ヲ願受クヘシ

第六條　鑑札ヲ毀失シタルトキハ再渡ヲ請ヒ改氏名轉居代替等ノトキハ鑑札書換ヲ請ヒ廢業等ノ節ハ之ヲ返納スヘシ

第七條　腐敗ニ傾キタル肉斃死セル獸畜ノ肉屠場ノ明カナラサル肉ヲ販賣スルコトヲ禁ス

第八條　他ノ肉ヲ偽稱シ又ハ混同シテ販賣スルコトヲ禁ス

第九條　此規則第二條第三條第四條第七條第八條ニ違背シタルトキハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス

○牛羊乳搾取販賣取締規則

○縣令第百五十五號　明治廿一年十一月十三日

牛羊乳搾取販賣取締規則左ノ通相定ム

但從來牛乳搾取營業者及請賣者ト雖モ本則ニ依リ更ニ願出ヘシ

第一條　牛羊乳ヲ搾取販賣セント欲スル者ハ別紙書

式ノ願書ニ(借地ナラハ其地主連署シ)豢場ノ位置並構造ノ各圖面及工事仕樣書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其地所構造ヲ增減變更スルトキモ亦仝シ但單ニ構造ノ變換ニ係ルモノハ地主ノ連署及位置ノ圖面ヲ要セス(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ挿入改正)

第二條　豢場ノ位置構造ハ左ノ各項ニ從フヘシ

豢場ハ人家ニ接セス相當ノ空地ヲ要シ且周圍ニハ木柵又ハ墻塀ヲ設クヘシ

畜舍ノ地盤ハ漆喰敲トナシ其上ニ厚板ヲ敷設シ且尿汚水等ノ糞尿溜ニ疏通スヘキ裝置ヲナスヘシ

畜舍ノ內部ハ周圍ニ高サ六尺以上ノ厚板ヲ張リ且適宜ニ窓ヲ設ケテ空氣ノ通暢ヲ能クスヘシ

糞尿溜ハ磁器ノ類ヲ用ヒ若クハ周圍底面トモ厚サ二寸以上ノ漆喰敲トナシ之ヲ舍外ニ設置シ相當ノ覆蓋ヲ備フヘシ

第三條　前條ノ構造落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出撿査ヲ受クヘシ撿査ノ上許可ヲ與フルニ非サレハ使用スルヲ得ス(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ改正)

第四條　免許ヲ得タル豢場ト雖モ實際障害アルヲ發見シタルトキ又ハ改作修繕ノ命ニ從ハサルトキハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第五條　乳牛羊ハ每頭番號ヲ付シ其產地種類牝牡年齡毛色等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ增減アルトキモ亦同シ(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ警察署ノ下又ハ分署ノ四字挿入第六條第十三條第十四條第十六條第十八條皆同之)

第六條　乳牛羊分娩後初メテ乳汁ヲ搾取販賣セント欲スルトキハ其番號種類及分娩ノ月日ヲ記シタル書面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ

第七條　乳汁ヲ搾取セント欲スルトキハ必ス乳房ヲ洗滌シ能ク其濕氣ヲ拭取リ汚物ノ混入セサル樣注意シシテ搾取シ尙清潔ナル綿布ノ類ニテ濾過スヘシ

第八條　乳汁ノ容器並量器ハ銅若クハ鉛製ノモノヲ

用フヘカラス且運搬中塵埃ノ混入セサル樣製造スヘシ尤モ使用終レハ直ニ洗滌シ極メテ清潔ニナスヘシ

第九條　左ノ各項ニ示シタル乳汁ヲ販賣スルハ勿論他人ニ贈與スルヲモ之ヲ禁ス

水又ハ他物ヲ混和セシモノ

病獸ヨリ搾取セシモノ

時ヲ經テ變質シタルモノ

乳脂ヲ分取シタルモノ

分娩後一周間以內ニ搾取シタルモノ

第十條　牛羊乳搾取人請賣人配達人等ニ就キ當該官吏ハ臨時乳汁ノ檢查ヲナスコトアルヘシ

第十一條　飼養者ハ飼料ニ注意シ專ラ良好ノモノヲ撰ムヘシ

第十二條　參場ノ內外ハ常ニ掃除シ踏藁等ハ時々取換ヘ總テ不潔ナラシムヘカラス

第十三條　乳牛羊疾病ニ罹リタルトキハ速ニ戲醫ノ診斷ヲ受ケ其番號種類ヲ記シタル書面ニ該診斷書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ全癒シタルトキ亦仝シ

第十四條　牛羊乳ヲ請賣セントスル者ハ搾取營業人連署ノ書面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ

第十五條　牛羊乳搾取所ニ於テ販賣スルモノハ甲號搾取人ニシテ別ニ販賣所ヲ設クル者及請賣人ハ乙號雛形ノ看板ヲ門戶ニ表出スヘシ且配達ノ節ハ搾取販賣人又ハ請賣人ニシテ自ラ配達スルト他人ヲシテ配達セシムルトヲ問ハス總テ丙號雛形ノ木札ヲ携帶スヘシ

甲號

何郡何町村字何

牛(羊)乳搾取販賣所

明治何年何月何日免許　住所　氏名

乙號

木材適宜
竪三尺橫八寸

何郡何町村字何參場
牛(羊)乳販賣(請賣)所
明治何年何月何日免許　住所　同　上
　　氏名

丙號

表

何郡何町村
字何參場
牛(羊)乳

裏

何郡何町村何番屋敷
搾取人

請賣人　氏名

木材同上
竪二寸
横一寸
五分

第十六條　牛羊乳搾取販賣人ハ毎半年各種乳汁搾取高及其期末ノ現在乳牛羊頭數ヲ取調ヘ(上半年分ハ七月下半年分ハ翌年一月)所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第十七條　參場ヲ讓渡シタルトキハ讓受人(借地ナラハ其地主トモ)連署ノ書面ヲ以テ直チニ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ改正)

第十八條　改氏名轉居代替廢業等ノ節ハ其都度搾取販賣人ニハ參場所在地町村長ノ奥印ヲ受クヘシ(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ本條中加除改正)

第十九條　第一條第十七條第十八條ノ搾取販賣人ニ係ル願届等ニハ參場所在地町村長ノ奥印ヲ受クヘシ(二十二年縣令第五十九號ヲ以テ本條中加除改正)

第二十條　此規則第一條第三條第五條第七條第八條第九條第十二條第十三條第十四條第十七條第十八條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處ス

(別紙)

願書式

牛(羊)乳搾取營業願

何郡何町村第何番屋敷

何地反別何程　持主　氏　名

右ノ地所ニ於テ牛羊畜養乳汁搾取販賣仕度候間御檢査ノ上御免許被成下度別紙位置並ニ搆造ノ各圖面及

工事仕樣書相添此段奉願候也

年號月日

右　願人　氏　名印

何郡何町村第何番屋敷
地主　氏　名印

滋賀縣知事氏名殿

（二十二年縣令第五十九號ヲ以テ願書式中改正）

○氷雪製造貯藏並販賣規則

○甲第百八十二號　明治十四年十一月五日

明治十一年十二月本縣甲第七十六號布達製氷檢查手續相廢シ氷雪製造貯藏幷販賣規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

但本則第一條出願期限ノ儀ハ本年ニ限リ十二月十日迄延期候事

（別冊）

氷雪製造貯藏幷ニ販賣規則

第一條　飲用ノ爲メ天然ノ凍氷ヲ製造セント欲スルモノハ毎年十月三十日限リ人工ヲ以製造セント欲スルノ概況ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ該場所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ尤モ製造場ノ外別ニ貯藏場ヲ設クル者ハ其旨願書ニ記載スヘシ但シ本文ノ地所官有地ナレハ別ニ地所拜借ヲ願出ヘク民有地ナレハ村總代若クハ地所持主等連署差支ナキ旨ヲ證シタル書面ヲ本文ノ願書ニ添ヘ差出スヘシ

第二條　前條願出ルトキハ主務官吏ヲ派出シ實地ニ就キ檢查シ不都合ナケレハ製造ヲ許可スヘシ

第三條　製造許可ノ後ト雖モ主務官吏臨時巡視シ若シ有害物ヲ混入スルカ或ハ不潔ノ製ト認ムルトキハ其製造ヲ差止メ又ハ現氷ヲ投棄セシムルコトアルヘシ

第四條　許可ノ上製造セシ凍氷ヲ發賣セント欲スルトキハ其期ニ至リ第二號書式ノ願書ヲ製造場所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ差出シ更ニ氷質ノ檢查ヲ受クヘシ但人工ヲ以製造スル者ハ最初一回本文ニ準シ檢查ヲ受クルニ於テハ次回以後ハ其都度願出ル

ニ及ハストト雖モ時々主務官吏ヲ派出シテ試驗ヲナスヘシ

第五條　前條氷質ノ檢查ヲ願出ルトキハ主務官吏ヲ派出ノ實地ニ就キ或ハ現品ヲ持參セシメ試驗ヲ遂ケ其質善良ニシテ無害ナル者ハ之ヲ飲料ニ供シ障害ナキ旨ヲ明記シタル試驗成績告示書ヲ下付スヘシ

但試驗ノ上品質不良ナルモノハ其旨ヲ明記シタル試驗成績告示書ヲ下付シ飲料ノ爲メニ發賣ヲ許サヽルハ勿論時宜ニヨリ適應ノ場所ヘ投棄セシムルコアルヘシ

第六條　天然ノ積雪又ハ他管ニ於テ製造シタル凍氷ヲ貯藏セント欲スル者ハ第一條ニ準シ初メニ貯藏場ノ檢查ヲ受ケ尙發賣ノ期ニ至リ第四條ニ準シ更ニ品質ノ檢查ヲ受クヘシ但他管ヨリ輸送スルモノハ其管轄廳許可ノ證ヲ差出スヘシ尤時宜ニ依リ貯藏ノ以前其品質ヲ檢查スルコアルヘシ

第七條　貯藏ノ氷雪未タ發賣檢查ヲ經サル以前醫師ニ於テ患者ノ外用ニ供シ又ハ動植物貯藏ノ用ニ供スル等ノ目的ニテ賣渡シ又ハ授與スルトキハ其需用セル書面等ノ證トナルヘキモノヲ添ヘ貯藏場所在ノ郡役所ヲ經テ當廳ニ屆出ヘシ但氷雪融解スルカ又ハ事故アリテ發賣セサルトキモ其旨屆出ヘシ

第八條　發賣檢查ヲ經タル（他府縣ノ檢查ヲ經タルモノ亦タ同シ）氷雪ヲ卸小賣若クハ行商セント欲スル者ハ第三號書式ノ願書ニ試驗成績告示書（他人ノ製造貯藏ニ係ルモノハ告示書ノ寫）ヲ添ヘ所管郡役所ヘ差出シ第四號雛形ノ營業鑑札ヲ申受ケ居商ハ店頭ニ揭示シ行商ハ之ヲ携帶スヘシ但甲者ノ製造セシ氷雪ヲ販賣スルトキハ其都度試驗成績告示書寫ヲ添ヘ賣センストスル者更ニ乙者ノ製造セシ氷雪ヲ販賣スル者ハ何地製造ノ凍氷若クハ積雪ト大書シタル看板ヲ居商ハ店頭行商ハ其行商具ニ揭示スヘシ

第九條　前條許可ヲ得テ氷雪ヲ販賣スル者ハ何地製造ノ凍氷若クハ積雪ト大書シタル看板ヲ居商ハ店頭行商ハ其行商具ニ揭示スヘシ

第十條　既ニ許可ヲ得テ販賣スルモノト雖モ賣品中

有害品アルコトヲ發見スルトキハ直ニ其販賣ヲ差止メ又ハ主務官吏ヲ派出シ更ニ試驗ヲ遂ケ果メ有害品ナルトキハ第五條但書ニ準シ處分スヘシ

第十一條　試驗成績告示書（發賣ヲ許可セル者ニ限ル）及營業鑑札ハ製造若クハ貯藏セシ氷雪ヲ賣盡シ又ハ販賣ヲ止メタルトキハ速ニ返納スヘシ但本文告示書及鑑札ノ効力ハ下付シタル年ノ十二月卅一日限トス

第十二條　營業鑑札ヲ貸借シ若クハ鑑札ヲ所持セスシテ氷雪ヲ飲料ノ爲メニ販賣スルヲ許サス

第十三條　製造若クハ貯藏ノ節檢查ヲ受ケタル氷雪ト雖モ更ニ發賣檢查ヲ受ケサルモノハ飲料ノ爲メニ發賣スルヲ許サス

第十四條　第十二條第十三條ニ違背シタルモノハ刑法第四百廿六條ノ刑ニ處ス（廿年縣令第八十一號ニテ改正）

第壹號

凍氷製造（凍氷或ハ積雪貯藏）願（用紙中紙ニテ二通）

何郡何町（村）官（民）有地何山（谷）字何々ニ於テ凍氷製造（凍氷或ハ積雪貯藏）仕度候間御檢查被成下度依テ別紙略圖面幷官地拜借願書（地所關係人連署書面）相添此段奉願候也

年月日　住所族籍

滋賀縣令氏名殿　氏　名印

前書ノ通相違無之ニ付奥印仕候也

戸長（本人現住地ノ戸長）　氏　名印

戸長（製造場若クハ貯藏場所在ノ戸長）　氏　名印

衞生委員（仝上）　氏　名印

第二號

凍氷（積雪）發賣御檢查願（用紙中紙ニテ二通）

本年何月何日付ヲ以出願何月何日御許可相成何郡何町（村）何所ニ於テ製造貯藏ノ凍氷（積雪）今般發賣仕度候間御檢查被成下度此段奉願候也

（署名奥書式等第壹號式ニ準ス）

第三號

凍氷（積雪）販賣營業鑑札下渡願　用紙半紙ニテ二通

一凍氷（積雪）　何程

（十七年甲第四十二號布達ヲ以テ此ノ資上ヶ見積金何程ノ）十字删除

產地何國何郡（區）何町（村）字何々

製造（貯藏）人住所族籍

氏　名

右卸（小賣）（行商）仕度候間營業鑑札御下渡被下度依テ別紙品質試驗成績告示書相添此段奉願候也

住所族籍

本人　氏　名　印

（十七年甲第四十二號布達ヲ以テ同業者住所族籍氏名ノ廉删除）

年月日

滋賀縣何郡長氏名殿

前書ノ通相違無之ニ付奥印仕候也

戶長

氏　名　印

第四條　營業鑑札雛形

表

第何號

凍氷（積雪）卸（小）賣（行商）營業

營業人

住所族籍

氏　名

裏

年月日

滋賀縣

何郡役所　烙印

木製

寸法

居商八

縱八寸

橫四寸

行商八

縱三寸五分

橫二寸

衞生委員

氏　名　印

○藥種商並製藥者取締細則

○縣令第十七號　明治廿三年二月二十四日

明治廿二年法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第四十二條ニ據リ藥種商並製藥者取締細則左ノ通相定ム

十但明治十七年一月本縣甲第十一號布達同十八年三月第三十二號布達同二十年五月本縣令第百三十三號同廿一年十二月本縣令第百七十二號ハ本年二月廿八日限リ廢止ス

藥種商並ニ製藥者取締細則

第一條　藥種商又ハ製藥者ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ其住所族籍氏名生年月日ニ記入シタル書面ヲ以テ縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　藥種商並製藥者免許鑑札ヲ毀失シ又ハ改氏名轉居代換等ノ節ハ其事由ヲ記シテ縣廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第三條　藥種商並製藥者廢業シタルトキハ十日以內死亡シタルトキハ一ケ月以內他管ニ移轉セントスルトキハ移轉前免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ

第四條　免許鑑札ハ賣買貸借スルコトヲ禁ス

第五條　藥種商並製藥者ハ左式ノ看板ヲ門戶又ハ店頭ニ掲クヘシ

口藥種商（製藥業）
滋賀縣何郡何町村大字何幾番屋敷
氏名

木材適宜
竪二尺五寸
横七寸

第六條　藥種商並製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

第七條　藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分チテ販賣セントスルトキハ每容器ニ藥品營業並藥品取扱規則第三十七條ニ依ルノ外尙自己ノ住所氏名ヲモ記スヘシ

第八條　但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分ケスルヿヲ得ス藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ藥品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

第九條　藥種商並製藥者ニ於テ使用スル藥品容器封

緘用印紙ノ衛生試驗所撿査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　本則第四條第五條第六條第七條第八條ニ違背シ又ハ第九條ノ命令ニ遵ハサルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十一條　本則施行以前ニ於テ內務省ヨリ製藥免許證ヲ得タルモノト雖モ本則ニ依リ更ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第十二條　從來本縣ノ藥種商免許鑑札ヲ所持スルモノハ更ニ鑑札願受クルニ及ハス其儘營業スルコトヲ得

（參考）

滋賀縣告示第二十六號　明治二十三年二月二十四日

明治二十二年三月法律第十號藥品營業幷藥品取扱規則第三十八條監視員巡視ノ際ハ左ノ雛形ノ證票ヲ携帶セム

紙製

曲尺二寸二分

表

藥品監視員之證

一寸七分

裏

滋賀縣廳印

○藥局ヲ開設セスシテ藥品ノ販賣製造ノ業ヲ營マントスルモノヽ屆出方

○縣令第十八號　明治廿三年二月廿四日

藥劑師藥局ヲ開設セスシテ單ニ藥品ノ販賣製造等ノ業ヲ營マント欲スルトキハ其住所族籍氏名ヲ記入シタル書面ニ免狀寫ヲ添ヘ縣廳ニ屆出ツヘシ其住所ヲ變換シタルトキ及ヒ廢業シタルトキモ亦仝シ

但住所ノ變換及ヒ廢業ニ係ル屆書ニハ免狀寫ヲ添フルニ及ハス

前項營業者ハ明治廿三年本縣令第十七號藥種商並製

藥者取締細則第五條第六條第七條（但書ヲ除ク）第八條ヲ遵守シ及ヒ第九條ノ命令ニ從フヘシ右ニ違背シタルモノハ同細則第十條ヲ適用ス

○格魯兒酸加溜謨ヲ賣買授受セントスルノ屆出方

○縣令第百三十六號　明治廿二年十一月八日

格魯兒酸加溜謨（コロールサンカルムエンソサンカルム）（鹽素酸加溜謨（エンソサンカルム）又ハ鹽酸加里（エンサンカリ））ヲ賣買授受スル者（醫師藥劑師藥種商製藥者ヲ除ク）ハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署ニ屆出認可ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時其現品ヲ撿査スルコトアルヘシ（二十三年縣令第十一號ヲ以テ本項中改正）

前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

格魯兒酸加溜謨　斤量

右ハ（醫業）（工職用等何々）必要ニ付前書ノ斤量

書式（用紙半紙罫）

（賣買）（授與）致度御認可被下度候也

本籍何府市町縣何郡區何村番地族籍

現住所何府市縣何郡區何番地

（買主）（受主）氏　名印　年齡

何府縣何町村番地族籍

（賣主）（授主）氏　名印　年齡

年月日

警察署長宛

○產婆營業規則

○甲第三十三號　明治十八年三月三日

產婆營業規則別冊ノ通相定候條此旨相達候事

但開業試驗實施ノ期日ハ追テ可相達ニ付夫マテハ從前ノ手續ニ據リ可願出尤モ志願ノ者ハ右期日內ト雖モ本則第一條ニ據リ願出ル時ハ試驗ヲ遂ケ免狀ヲ交付スヘシ

（別冊）

産婆營業規則

第一條　産婆ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ下ニ示ス書式ノ願書並ニ免許産婆ノ助手トナリ平産十人以上難産二人以上ヲ取扱ヒタル履歴書ニ教師ノ証書ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出試驗ヲ請フヘシ

第二條　當廳ニ於テハ左ノ試驗ヲ遂ケ內務省ヘ具申シ合格ノ者ハ同省ノ免狀ヲ付與スヘシ

第一　試驗科目

婦人生殖器ノ構造及生理概畧

姙娠ノ徵候監別及攝生法

順産ノ處置及不順産ノ處置

産前後ノ注意及生兒ノ取扱法

第二　試驗問題ハ一科二題トシ答記時間ハ一題二時間ヲ超ルヲ許サス但筆記ヲ能クセサル者ハ口答セシメ傍ニ於テ筆記セシムヘシ

第三　受驗人ハ書籍ヲ携帶シテ試驗場ニ入ルヲ許サス且一問ノ答記ヲ了ラサル間ハ他席ニ出ルヲ許サス

第三條　從來開業ノ者ニテ當縣產婆免許鑑札ヲ有スル者ハ試驗ヲ要セス當分營業スルヲ許ス但從來開業ノ者ト雖モ本免狀ヲ得ント欲スルモノハ第一條ノ手續ニ據リ願出ヘシ

第四條　産婦及生兒ニ對シ針灸ハ勿論藥劑ヲ與ヘ若クハ藥方ヲ指示スヘカラス

第五條　難産ノ場合ニ於テハ醫師ノ差圖ヲ受クルコト非レハ妄リニ手ヲ下スヘカラス但時機切迫醫ヲ請フノ暇ナキ場合ハ格別ナリトス

第六條　産婆ハ如何ナル難産ノ場合ト雖モ一切器機ヲ使用スルヲ許サス

第七條　他管ニ於テ內務省ノ免狀ヲ受ケタル者當縣下ニ轉籍若クハ寄留シテ開業セント欲スルトキハ免狀寫ニ履歷書ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出ヘシ

但轉籍ニ係ル者ハ免狀書換ヲモ請願スヘシ

第八條　內務省ノ免狀ヲ有スル者他ヘ（管內外ヲ問ハス）轉籍若クハ寄留スルトキハ其旨所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出ヘシ

但他管ヘ轉籍ノ者ニ係ル免狀書換ハ入籍地ノ管廳ヘ請願スヘシ

第九條　免許鑑札ヲ有スル者他ヘ轉籍若クハ寄留スルトキハ其管外ニ係ル者ハ鑑札ヲ返納シ管內ニ係ル者ハ移住地ノ郡役所ヲ經テ書換ヲ請願スヘシ

第十條　免狀免許鑑札ハ本人廢業若クハ死亡シタルトキハ之ヲ返納シ改氏名其他身上ニ異動ヲ生シ又ハ水火盜難過誤等ニテ毀失シタルトキハ其事由ヲ具シ書換ヲ請願スヘシ

第十一條　免許ヲ得スシテ產婆ノ業ヲ營ミ又ハ此規則第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ違警罪ト シ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十二條　本縣ノ免許鑑札ヲ有スル產婆ニテ此規則ニ違背シ又ハ總テ產婆ノ業務ニ關シ處刑ヲ受ケタル者ハ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

（書式）

產婆開業願　用紙美濃紙ニテ三通

私儀產婆開業仕度候間御成規ノ通御試驗ノ上御許可被成下度依テ別紙履歷書並師家證書相添此段奉願候也

年月日　　住所族籍

滋賀縣令氏名殿　　氏　名印

前書之通相違無之候ニ付奧印仕候也

戶長　氏　名印

衛生委員　氏　名印

履歷明細書　用紙美濃紙ニテ二通

住所族籍
氏　名
年號何年何月生

一年號何年何月ヨリ何府縣何所何某ニ從ヒ何年何月迄何學修業

一年號何年何月ヨリ何府縣何所産婆何某ノ助手トナリ何年何月迄平産何人難産何人ヲ取扱フ

右之通相違無之候也

年月日　右　氏　名印

右掲記外ノ願屆書ハ適宜ニ認ムヘシト雖モ必ス衛生委員ノ奥書調印ヲ要スルモノトス

○鍼灸術並按摩營業取締規則

○甲第百八十號　明治十八年十二月廿一日

鍼灸術並按摩營業取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

鍼灸術並按摩營業取締規則

第一條　鍼治(毫鍼ヲ云フ)又ハ灸治墨灸藥灸水灸漆灸ト稱スル類ノモノ包含ス)ノ業ヲ營マント欲スルモノハ第一號書式ニ據リ修業履歴書及ヒ師家ノ證書ヲ添ヘ縣廳ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ但墨灸藥灸水灸漆灸ノ類ハ別ニ其方劑書ヲ付スヘシ

第二條　前條營業者ハ滿二十年以上ノモノニ非レハ許可セサルモノトス

第三條　按摩(按腹又ハ乳揉ト稱スル類ノモノモ含有ス)ノ業ヲ營マント欲スルモノハ第二號書式ニ據リ所管郡役所ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ

第四條　免許鑑札ヲ毀失シ若クハ改氏名轉居等ノ節ハ再渡又ハ書換ヲ乞ヒ廢業死亡又ハ他管ヘ轉籍寄留スルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ

第五條　各營業者ハ其業名並ニ氏名ヲ記シタル看板ヲ表出シ且ツ他出シテ營業スルトキハ必ス鑑札ヲ携帶スヘシ

第六條　鑑札ヲ貸與シ又ハ讓與スルヿヲ許サス

第七條　醫師治療中ノ患者ニ對シテハ其醫師ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鍼治灸治等ノ術ヲ施スコトヲ許サス

第八條　人ニ藥劑ヲ與フルハ勿論藥方治療法等ヲ指示シ又ハ醫師ノ差圖ニ非スシテ蛭鍼吸角其他放血ノ術ヲ施スコトヲ禁ス

第九條　各營業者ハ一郡若クハ數町村同業者ノ申合ヲ以テ組合ヲ立テ其規約ヲ設クルコトヲ得

但組合約規ハ所管郡役所ノ認可ヲ經テ施行スヘシ

第十條　無鑑札ニテ營業シ又ハ此規則第五條第六條第七條第八條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處スルノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ（二十年縣令第八十一號ニテ改正）

第壹號書式（用紙半紙）

鍼（灸）術營業願

私儀今般鍼（灸）術營業仕度候間免許鑑札御下附被成下度別紙修業履歷書並ニ師家ノ証書（方劑書）相添此段奉願候也

年號月日　住所族籍

滋賀縣令氏名殿　氏　名印

前書之通ニ付奥印仕候也　戸長　氏　名印

履歷書（用紙半紙）

住所族籍
（寄留人ナレハ原籍府縣國郡區町村番地ヲ列記スヘシ）
戸主又ハ何誰幾男女　氏　名　生年月

一何年號月日ヨリ何府縣何ノ誰ニ從ヒ何年何月間何學（術）修業

一何年號何月何府縣ノ免許鑑札ヲ得何年何月間鍼

（灸）術營業

一何年號何月何國何郡何町（村）何番地ヘ轉住

一何々

一刑罰ノ有無

右之通相違無之候也

年號月日　　右　氏　名印

第二號書式（用紙半紙）

按摩營業願

私儀今般按摩營業仕度候間免許鑑札御下附被成下度此段奉願候也

住所族籍

年號月日　　氏　名印

何郡長氏名殿

（奥書式第一號ニ仝シ）

（參考）

○甲第百七十九號　明治十八年十二月廿一日

明治十五年二月本縣甲第三拾壹號布達按摩針灸等營業規則相廢候條此旨布達候事

○縣令甲第九號　明治十九年八月七日

灸治營業者ニ於テ墨灸藥灸水灸漆灸ト類スル類ニ要スル方劑中明治十三年太政官第一號布告藥品取扱規則第二類第三類ニ掲ケタル毒藥劇藥ヲ配伍スルモノ之ヲ使用スルコトヲ禁ス違フ者ハ違警罪ノ處分ニ付セラルヘシ

灸治營業者ニ於テ毒藥劇藥ヲ配伍スル方劑使用禁止

○甲第百八十一號　明治十八年十二月二十一日

○入齒齒拔口中療治接骨營業取締規則

入齒齒拔口中療治接骨營業取締規則左ノ通相定候條此旨布達候事

第一條　入齒齒拔口中療治接骨營業ヲ受ケ鑑札ヲ所持スルモノニ限ル

第二條　免許鑑札ヲ毀失シ若クハ改氏名轉居等ノ節

ハ再渡又ハ書換ヲ乞ヒ廢業死亡又ハ他管ヘ轉籍寄留スルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條　他管ニ於テ從來開業ノ免許ヲ受ケタルモノ本縣管內ヘ轉籍寄留又ハ出張所ヲ設ケ開業セントト欲スルトキハ前管廳ノ免許証寫ヲ添ヘ縣廳ヘ願出ツヘシ

第四條　各營業者ハ其業名並ニ氏名ヲ記シタル看板ヲ表出スヘシ且ツ他出シテ營業スルトキハ必ス鑑札ヲ携帶スヘシ

第五條　鑑札ヲ貸與シ又ハ讓與スルヿヲ許サス

第六條　局部外ノ施術及ヒ內服藥ヲ與ヘ又ハ其方劑ヲ指示スルヿヲ禁ス

第七條　明治十三年第一號布告藥品取扱規則第二類第三類ニ揭クル毒劇藥ハ施術上如何ナル塲合ト雖モ之ヲ使用スルヲ許サス

第八條　各營業者ハ一郡若クハ數町村同業者ノ申合ヲ以テ組合ヲ立テ其規約ヲ設クルヿヲ得但組合規約ハ所管郡役所ノ認可ヲ經テ施行スヘシ

第九條　無鑑札ニテ營業シ又ハ此規則第四條第五條第六條第七條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處スルノ外行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルヿアルヘシ（二十年縣令第八十一號ニテ改正）

○縣令甲第三十九號　明治十九年十一月十一日

入齒若クハ齒拔營業鑑札ヲ所持スルモノハ互ニ其業ヲ兼ルヲ得

○賣藥部外藥劑調製並販賣規則

○甲第三十六號　明治十五年二月廿三日

賣藥部外藥劑調製並販賣規則別冊ノ通相定來ル四月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從前當廳ノ許可ヲ得タル調劑者ハ更ニ願出ルニ及ハス候事

（別冊）

賣藥部外藥劑調製並販賣規則

第一條　此規則ニ稱スル處ノ賣藥部外藥劑トハ鼠取

藥蠅取藥虱失セ紐ノ類其他田圃ニ用フル驅蟲藥飲食物ノ損敗ヲ修治防止スル諸藥等總テ人畜治病ノ目的ニ非スシテ調製販賣スル藥劑ヲ云フ

第二條　前條ニ揭クル藥劑ヲ調製シテ販賣セント欲スル者ハ第一號式ノ書面ニ製劑ヲ添ヘ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ但他管ニ於テ曾テ發賣ノ免許ヲ得タル者當縣下ニ轉籍若クハ○寄留シテ仍ホ營業セント欲スル者モ本條ニ準シ願出ヘシ

第三條　當廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製劑配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及毒劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サヽルヘシ

第四條　既ニ許可ノ後ト雖モ其製劑前條ニ揭クル有害品ナルヲ更ニ發見スル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘシ

第五條　既ニ許可ヲ得タル製劑ト雖モ其藥味分量用法能書方名等ヲ改正セント欲スル時ハ一旦鑑札ヲ返納シ更ニ第二條ノ手續ヲ爲シ新鑑札ヲ願受クヘシ

第六條　調劑者免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル時ハ第二號ノ書面ヲ所管郡役所ヲ經テ當廳ヘ差出シ鑑札書換ヲ請フヘシ但他管ノ者ヨリ讓受ケ又ハ他管ノ者ヘ讓渡スヲ許サス

第七條　第一條ニ揭クル藥劑ヲ請賣セント欲スル者ハ第三號書式ノ書面ニ調劑者所持ノ免許鑑札寫ヲ添ヘ所管郡役所ヘ願出請賣鑑札ヲ受クヘシ但他管ノ調劑者ニ係ル藥劑ト雖モ其管轄廳許可ノ証アルモノハ當廳ノ許可ヲ得タルモノト同ク當縣下ニ於テ請賣スルコヲ得ヘシ

第八條　調劑者及請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スル時ハ第四號式ノ願書ヲ所管郡役所ヘ差出シ行商鑑札ヲ受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第九條　調劑者廢業スルカ又ハ禁止セラルヽ時ハ速ニ請賣者賣子等ニ通知スヘシ

第十條　請賣者賣子等前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ販賣ヲ止メ鑑札ヲ返納スヘシ

第十一條　諸鑑札ハ本人廢業若クハ死亡スルトキハ之ヲ返納シ改氏名代替リ其他身上ニ異動ヲ生シタルトキハ書換ヲ請フヘシ但廢業其他ノ事故ニ依リ鑑札ヲ返納スルトキハ其屆書ニ請賣者若クハ賣子ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第十二條　水火盜難過誤等ニテ諸鑑札ヲ毀失シタルトキハ其事由ヲ詳具シ再渡ヲ請フヘシ

第十三條　免許ヲ得スシテ藥劑ヲ調製賣藥賣シ又ハ請賣行商シ又ハ此規則第五條第八條第九條第十條ニ違反シタル者ハ刑法第四百二十六條ノ刑ニ處スルノ外其藥劑ハ行政ノ處分ヲ以テ廢棄セシムルコトアルヘシ（十七年甲第十號布達ヲ以テ改正セラレ又廿年縣令第八十一號ニテ改正ニナル）

第一號　賣藥部外藥劑檢查願　用紙半紙ニテ二通

一方名

藥品　分量

製法

用法

功能

右藥劑調製發賣仕度候間御檢查ノ上免許鑑札御下渡被下度依テ製劑相添此段奉願候也

年號月日　住所族籍

滋賀縣令氏名殿　氏　名印

前書相違無之ニ付奥書仕候也

戶長　氏　名印

衞生委員　氏　名印

第二號　賣藥部外藥劑讓渡願　用紙半紙ニテ二通

一方名

薬品　分量
製法
用法
功能
右ハ何年何月御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何某ヘ譲渡申候依テ所持ノ鑑札返納仕候間御書換被下度此段奉願候也

年號月日　住所族籍
譲渡人　氏　名印
住所族籍
譲受人　氏　名印

滋賀縣令氏名殿
（奥書式前同但譲渡人譲受人双方ノ戸長衛生委員奥書調印スヘシ）

第三號

賣藥部外藥劑請賣願　用紙半紙ニテ一通

一方名　一方名
住所族籍

右調劑者　氏　名
（調劑者異ナレハ假令一方タリトモ必調劑者ノ住所族籍氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ記載スヘシ）
右ノ藥劑何方請賣仕度依テ別紙調劑者所持ノ免許鑑札寫相添此段奉願候也

住所族籍
請賣願人　氏　名印

年號月日
滋賀縣何郡長氏名殿
（奥書式第一號ニ同シ）

第四號

賣藥部外藥劑行商願　用紙半紙ニテ一通

一方名　一方名
住所族籍

右調劑者　氏　名
住所族籍
賣子　氏　名
（願人請賣者ナレハ左ノ通リ認ムヘシ）

右調劑者　住所族籍
　　氏　名

右請賣者　住所族籍
　　氏　名

（賣子ノ住所族籍氏名ハ前ニ同シ）

右ノ藥劑自分（賣子派出）行商仕度候間行商鑑札御下渡被下度此段奉願候也

年號月日　右調劑者（請賣者）
　　氏　名印

滋賀縣何郡長氏名殿

（奥書式第一號ニ同シ）

第五號

諸鑑札雛形

調劑免許鑑札

番號
一方名
右免許候事
年月日
滋賀縣印

寸法
縱五寸五分
横四寸
但紙製

賣藥部外藥劑許可之證

番號
一方名
右調劑者　住所　氏　名
右請賣免許候事
年月日
滋賀縣
何郡役所印

寸法同前
但紙製

賣藥部外藥劑請賣許可之證

番號
一方名
一方名
右請賣者　住所　氏　名
右請賣免許候事
年月日
滋賀縣
何郡役所印

寸法
縱三寸五分
横二寸五分
但木製

全上　裏面

調劑者　住所　氏　名
請賣者　住所　氏　名

行商鑑札　表面

賣藥部外藥劑行商許可之證

一方名　一方名　一方名
一方名　一方名　一方名
右行商免許候事

全上
裏面

年月日
○
番號

烙印

滋賀縣
何郡役所

○傳染病豫防細則

○甲第八十七號　明治十六年七月三十日

傳染病豫防細則別冊ノ通相定メ來九月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從前當廳ノ布達々指令等ニシテ本則ニ抵觸ノ廉ハ總テ消滅候儀ト可相心得事

（別冊）

傳染病豫防細則

第一章　總則

第一條　傳染病（虎列拉、腸室扶私、赤痢、實布的利亞、豫防ノ方法ハ發疹室扶斯、痘瘡ノ六病ヲ云フ）明治十三年七月第三十四號布告傳染病豫防規則ノ外尚ホ本則ヲ施行スルモノトス但腸室扶私、赤痢、實布的利亞ノ三病ニ於テ之ヲ施行スルハ其流行ノ兆アル旨告示シタル場合

第二條　傳染病消毒ノ方法ハ明治十六年七月本縣告第七十二號告示ニ依ルヘシ

第三條　自宅療養ヲ爲スヲハ其病室ヲ異ニシ看護人ヲ定ムヘシ但病室ヲ異ニスルヲ得サル場合ニ於テハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條　自宅療養ヲ爲スヲハ止ヲ得サル要用アル者ヲ除クノ外他人ノ出入ヲ謝絶スヘシ

第五條　患者治癒死亡シ又ハ避病院ヘ送致シタル後其衣服、臥具、器具、及病室等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ消毒法ヲ施行シ其久シク患者或ハ死体ニ直接シ又ハ甚シク汚穢シタルモノハ燒却又ハ埋却スヘシ

第六條　患者治癒シタル後又ハ看護人其他患者或ハ死体ニ親接シタル者ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮

ヲ受ケ消毒法ヲ行フニ非サレハ他人ト交通スヘカラス

第七條　病毒ニ汚染シタル臥具、衣服、器物ノ類ヲ洗滌シタル汚水ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指定シタル場所外ニ投棄スヘカラス

第八條　患者若クハ死体ニ觸接シ又ハ排泄物ニ汚染シタル臥具、衣服、器物ノ類ヲ湖川溝渠等ニ於テ洗滌スヘカラス

第九條　患者死亡セシトキハ直ニ療治醫及衛生委員ニ通報スヘシ

第十條　死体ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ消毒法ヲ施行シ速ニ棺内ニ斂ムヘシ

第十一條　掛官吏ノ〔許可ヲ得スシテ患者及ヒ死体ヲ他ニ移轉スヘカラス（十九年甲第五十五號布達ヲ以テ改正）

但傳染病豫防規則第十四條第二項ヲ施行スル場合ニ於テハ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病者死者モ亦本條ニ準ス

第十二條　航湖中船舶内ニ於テ傳染病若クハ該病ノ疑アル症ニ罹ル者又ハ其死者アルトキハ施行シ得ヘキ豫防及消毒ノ方法ヲ行ヒ置キ着港ノ上直ニ其地掛官吏若クハ衛生委員ヘ届出指揮ヲ受クヘシ

第二章　虎列刺病

第十三條　排泄物汚穢物ハ其都度消毒法ヲ施行シ有蓋ノ器物ニ入レ密閉シ置クヘシ

第十四條　掛官吏若クハ衛生委員ノ許可ヲ得スシテ患者ノ入リタル厠圊ヲ健康人ノ用ニ供シ又ハ其糞尿ヲ汲取ルヘカラス

第十五條　患者若クハ死体ヲ載セタル船、車、駕籠、釣臺等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ毎回消毒法ヲ施行スヘシ

第十六條　火葬又ハ埋葬ノ處置方法ニ付テハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第十七條　患者療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避病院ヘ送致シタル後タリ𪜈消毒法ヲ施行セサル以前ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其家内

ニ在ル物品ヲ賣買受授スヘカラス

第十八條　患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛官吏ノ指定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ證ヲ得ルニ非サレハ乘組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚地又ハ他船ト交通並ニ他港ヘ進航スルヲ許サス

第三章　腸窒扶私病　赤痢病

第十九條　排泄物汚穢物ハ其都度消毒法ヲ施行シ有蓋ノ器物ニ入レ密閉シ置クヘシ

第二十條　掛官吏若クハ衛生委員ノ許可ヲ得スシテ患者ノ入リタル厠圄ヲ健康人ノ用ニ供シ又ハ其糞尿ヲ汲取ルヘカラス

第廿一條　患者若クハ死体ヲ載セタル船車駕籠釣臺等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ每回消毒法ヲ施行スヘシ

第四章　實布垤利亞病

第廿二條　患者ノ痰唾洟汁及之ニ汚穢スル綿布、紙屑ノ類ハ其都度消毒法ヲ行ヒ有蓋ノ器物ニ入レ密閉シ置クヘシ

第廿三條　患者若クハ死体ヲ載セタル船、車、駕籠、釣臺等ハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受ケ每回消毒法ヲ施行スヘシ

第五章　發疹窒扶私病

第廿四條　火葬又ハ埋葬ノ處置方法ニ付テハ掛官吏若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第廿五條　患者療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避病院ヘ送致シタル後タリトモ消毒法ヲ施行セサル以前ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ得ルニ非レハ其家内ニ在ル物品ヲ賣買受授スヘカラス

第廿六條　患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛官吏ノ指定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ證ヲ得ルニ非サレハ乘組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚地又ハ他船トノ交通並ニ他港ヘ進航スルヲ許サス

第六章　痘瘡病

第廿七條　火葬又ハ埋葬ノ處置方法ニ付テハ掛官吏

若クハ衛生委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第廿八條　患者療養中ハ勿論假令治癒死亡若クハ避病院ヘ送致シタル後タリトモ消毒法ヲ施行セサル以前ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其家内ニ在ル物品ヲ賣買授受スヘカラス

第廿九條　落痂及病室ノ塵埃及患者觸レタル綿布紙屑ノ類ハ斷片ニ至ル迄時々收拾シ之ヲ燒却スヘシ

第三十條　患者又ハ死者アリタル船舶ハ掛官吏ノ指定スル場所ニ碇泊シ其許可ノ證ヲ得ルニ非サレハ乘組人船客ノ上陸ハ勿論荷物ノ陸揚陸地又ハ他船トノ交通並ニ他港ヘ進航スルヲ許サス

第七章　罰則

第三十一條　此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ノ處分ニ付スヘシ

（參考）

○告第七十二號　明治十六年七月三十日

傳染病消毒法別冊ノ通可相心得此旨告示候事

（別冊）

傳染病消毒法

凡ソ傳染病毒ハ其性分極メテ幺微ニシテ見ルヘカラスト雖モ傳送物中ニ混入シテ人体ニ達シ其病症ヲ發現スルモノトス此傳送物ヲ滅スルハ即チ病毒モ亦消盡スル故ニ烈火ヲ用ヒ之ヲ燒盡スルハ消毒ノ最良ト然レ𪜈其燒棄ニ付シ難モノハ或ハ藥劑ヲ用ヒテ蒸蒸若クハ灌注シ或ハ之ヲ洗滌シ以テ其病毒傳染ノ力ヲ撲滅スルヲ得ヘシ然ラサレハ其病毒散蔓シテ終ニ消滅スルヿナカラン故ニ病毒萌動ノ後ニアリテハ消毒ヲ以テ豫防法中ノ最モ緊要ナルモノトス

スニ當テ其病性ト其施スヘキ物トニヨリセス故ニ之ヲ分チ第一患者及ヒ看護人等其科ヲ同クセス故ニ之ヲ分チ第一患者及ヒ看護人等消毒法第二死体及ヒ排泄物等消毒法第三衣服、臥具等消毒法、第四家屋、船舶等消毒法、第五什具、運搬器等消毒

法、第六厠圊、溝渠等消毒法トス但實布垤利亞、發疹窒扶
私、痘瘡ノ三病ハ第六ノ消毒法ヲ行フノ限ニアラス
消毒藥劑ハ其品類頗ル多ク且其性質功能モ亦同一ナ
ラス故ニ其功能ヲ類別シテ第一號ヨリ第九號ニ至ル
ヲ以テ各病消毒法ノ條ト相照シテ之ヲ用フルニ便ニス

消毒藥

（第一）濃厚石炭酸水

結晶石炭酸四分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但石炭酸一分ニ虞利斯林又ハ亞爾箇兒二分ヲ和シテ能ク溶解シ後本量ノ水ヲ加フヘシ

（第二）稀薄石炭酸水

結晶石炭酸二分ヲ百分ノ水ニ溶シタルモノ

但溶解法前ニ同シ

（第三）石炭酸蒸氣

結晶石炭酸（或ハ之ニ二培ノ亞的兒ヲ加ヘタルモノ）ヲ皿ニ入レ微火ニ上セ蒸發セシメ或ハ石炭酸一分ニ溜水二十分ヲ和シ布片ニ濕シ室内ニ懸ケ置キ蒸

發セシムヘシ

（第四）石炭酸末

粗製石炭酸ヲ以テ砂、灰、木炭末、鋸屑等ヲ濕潤セシメタルモノ

但粗製石炭酸ハ四十分ヨリ六十分ノ一フェニール酸即チ結晶石炭酸ヲ含ミ稍々色ヲ帶ヒタル流動石炭酸ナリ

以下消毒同効アルモノニシテ通常用ヒサル品

サリシル酸　三百倍ノ水ニ溶解ス

テールル油

石炭酸石灰　石灰百分石炭酸三分

（第五）流酸鐵合劑

綠礬三百匁ヲ常水一斗ニ和シ粗製石炭酸百匁ヲ加ヘタルモノ

但此合劑ハ久ク貯フヘカラス用ニ臨ミテ調製ス

ヘシ

（第六）硫酸礬硫酸鐵合劑

硫酸五分硫酸鐵六分水八十九分ヲ和シタルモノ
以下消毒同効アルモノニシテ通常用ヒサル品
　鹽化亞鉛八倍ノ水ニ溶解セルモノ
　明礬（粗製明礬ノ過量ヲ水中ニ投シ能ク攪拌シテ後其上清ヲ取ル）四倍ノ水ニ溶解ス
　コロール明礬　四倍ノ水ニ溶解ス
（第七）木炭二十倍ノ水ニ溶解ス
（第八）石灰　木炭二分生石灰二十分
　其他木灰、鋸屑、土等ハ又多少收結ノ功アルモノトス
（第九）亞硫瓦斯ヲ發生セシムル法ハ疊數ノ室ニ硫黄大約三百匁（木炭末大約十匁ヲ加フルヲハ更ニ宜シ）ヲ要ス但一時ニ火焔ノ昇騰スル恐アルヲ以テ二三ノ火鉢ニ分配シ熾炭ヲ之ニ點シテ徐々ニ焚燒セシムヘシ
　但多數ノ物品ヲ消毒スルニハ密閉シタル室（土藏ノ類）ニ繩ヲ張リ消毒スヘキ衣服等ヲ掛ケ或ハ竹

架ヲ設ケテ之ヲ排列シ本量ノ硫黄ヲ燻スヘシ又
人々各自ノ衣服ヲ消毒スルニハ一握ノ粗製硫黄
ヲ火鉢ニ入レ火ヲ點シ伏籠ノ類ヲ覆ヒ之ニ衣服
ヲ被ラセ燻蒸スヘシ

○虎列刺

凡ソ虎列刺ノ病毒ハ其吐瀉物ニ含ルモノトス故ニ吐瀉物及ヒ之ニ汚染スルモノハ嚴ニ消毒法ヲ行フヘシ就中之ヲ燒滅スルヲ以テ最良法トス患者及ヒ其死体ハ直ニ病毒ヲ傳フル者ニ非スト雖モ吐瀉物ニ汚染スルヲ以テ亦病毒汚染物ト同視スヘシ消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヿ左ノ如シ

第一　患者及看護人等消毒法

第一條　患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必ス沐浴シ石鹸水ヲ用ヒテ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ吐瀉物運搬人及ヒ避病院ノ醫師、看護人、死体取扱人等ノ他人ニ接スルヿハ亦此法ニ從フヘシ

第二條　自宅療養ノ看護人及（患者死体）運搬人又ハ船中ニテ患者ト同席シタル者ノ他人ト交通スルトキハ必ス沐浴更衣スヘシ

第三條　病家ニ於テ止ムヲ得サル事故アリテ看護人其他患者ニ親接セル者ノ他出スルトキハ必ス其身体ヲ洗淨シテ更衣スヘシ

第四條　自宅患者ヲ往診セル醫師及ヒ患者ノ家人ニシテ患者ニ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ消毒法ヲ行フヲ要セサレモ其家ヲ出ルニ臨テ鹽嗽スルヲ良トス但誤テ吐瀉物ノ爲メニ其衣服等ヲ汚シタルトキハ第十二條ニ據リ消毒法ヲ行フヘシ

第二　死体及排泄物等消毒法

第五條　死体ハ充分ニ稀薄石炭酸水（第二）ニ浸シタル單衣若クハ綿布等ヲ以テ之ヲ包ミナルヘク速ニ棺内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸水（第一）ヲ用テ灌腸シ然ル後綿ヲ以テ虹門ヲ塞クヿヲ得ハ最良トス

第六條　死体ハ醫師確認ノ後ハ成ルヘク速ニ火葬スヘシ若シ止ヲ得ス埋葬スルトキハ壙穴ノ深サハ各地ノ燥濕高低ニ從ヒ凡ソ八尺以上一丈二尺以下タルヘシ

第七條　船舶航行中死者アルトキハ速ニ濃厚石炭酸水（第一）ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ假ニ棺内ニ斂メ通常屍室或ハ船中適宜ノ場所ヲ見計ヒ此ニ入レ置キ時々濃厚石炭酸水（第一）ヲ灌注スヘシ

第八條　吐瀉物及之ニ汚染セル紙屑、布片等ハ之ヲ金属又ハ陶製ノ便器、嗽盤等ニ承ケ之ト同量ノ濃厚石炭酸水（第一）（石炭酸若シ缺乏ノ時ニ際シテハ硫酸鐵合劑、硫酸硫酸鐵合劑、生石灰等糞撰用スヘシ）ヲ灌キ壺或ハ桶ニ入レ戸外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第九條　避病院又ハ各病家ヨリ運搬シタル吐瀉物汚穢物ヲ燒却スルニハ豫テ定メ置キタル場所ニ適宜ノ穴ヲ堀リ厚ク灰或ハ石灰ヲ其底ニ敷キ乾キタル藁、鉋屑、落葉、枯草ノ類ニ石炭油ヲ注キテ其上ニ置キ之ニ吐瀉物ヲ投シ再ヒ同前ノ燃料ヲ覆ヒテ火ヲ點

スヘシ火勢減スルトキハ更ニ油ヲ注キテ屢々攪挑シ全ク燒盡スルヲ期スヘシ但其汚汁ノ地中ニ滲透セサル樣注意スルヲ要ス

第十條　吐瀉物ハ前條ノ如ク燒却スルヲ法トスレモ若シ水分多クシテ燒却シ難キモノハ石炭酸末（第四）（糞汁ノ五分一）若シ其缺乏ニ際シテハ生石灰（糞汁ノ三分一）ヲ投シテ汲取リ豫定ノ場所ニ埋却スヘシ

第十一條　患者ノ入リタル厠圄ノ糞汁ハ法ノ如ク燒却スヘキモ若シ大量ニシテ燒却シ難キモノハ石炭酸末（第四）（糞汁ノ五分一）ヲ以テ汲取リ豫定ノ場所ニ埋却スヘシ

第三

衣服臥具等消毒法

第十二條　甚シク吐瀉物ニ汚染シ又ハ久シク患者ノ接シタル衣服、臥具、蚊帳、疊、席等ハ之ヲ燒却スヘシト雖モ其汚染スルヿ甚シカラス患者若クハ死体ニ直接シタル衣服、臥具、蚊帳、疊、席等ハ之ヲ燒却スヘシト雖モ其汚染スルヿ甚シカラス患者若クハ死体ニ接スルヿ久シカラスシテ洗濯ニ堪フヘキモノハ之ヲ桶ニ入レ稀簿石炭酸水（第二）ヲ灌キ浸シ置クヿ廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等ノ缺乏ニ際シテハ熱湯中ニ入レ一時間以上之ヲ煮沸スヘシ其洗濯ニ堪ヘサルモノハ其品種ニヨリテ亞硫酸瓦斯（第九）若クハ石炭酸蒸氣（第三）ヲ以薫蒸スヘシ

第十三條　吐瀉物運搬人及避病院ノ醫師看護人死体取扱人等ハ患者及汚穢物ニ親接スルヿ久シク若クハ屢次ナルヲ以テ其衣服等ニ消毒法ヲ施スヿ前條ニ同シ但本文ニ揭クル所ノ者日々衣服ヲ更換セハ沸湯中ニ入レ一時以上ニ之ヲ煮沸スルヲ以テ足レリトス

第十四條　自宅療養ノ看護人及（患者死体）運搬人又ハ船中等ニテ患者ト同席シタル者ノ衣服手道具等ハ直ニ病毒ニ汚染セサルモ稍々浸染ノ疑アルモノハ石炭酸蒸氣（第三）或ハ亞硫酸瓦斯（第九）ヲ以テ薫蒸シ日光及大氣ニ曝スヘシ

第四　家屋船舶等消毒法

第十五條　患者及死体ヲ置キタル室ノ疊、莚類ハ之ヲ
柱若クハ塗ヨ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ室内ニ在リ
シ諸器具ハ之ヲ排列シ窓戸密閉シテ六時乃至八時
間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫シ然ル後窓戸ヲ開キ吐瀉物
ヨ汚染ノ嫌アル板敷等ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ
之ヲ拭淨シ其他器具ハ石鹸水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨
シ充分大氣及日光ニ曝スヘシ避病院ノ病室、屍室及
臨時避病院ニ假用セシ家屋モ亦之ニ倣フヘシ但金
銀器、書籍其他彩色ヲ施セル物及絹帛等亞硫酸ノ爲
メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ初ニ之ヲ取
除ケ別ニ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薫蒸スヘシ

第十六條　患者アリタル西洋形船舶ノ消毒法ハ前條
ヲ適用シ患者ト船室ヲ同クシタル乘客及其手荷物
ニハ上陸ノ時充分ニ消毒法ヲ行ヒ其室内ニ若シ積
荷アレハ其儘六時乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)或ハ
品物ニヨリ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薫蒸スヘシ但日
本形小船ハ適宜本條ヲ斟酌シテ施行スヘシ

第十七條　病室ハ不斷換氣法ニ注意スヘク是亦多少
消毒ノ効アルモノトス

第十八條　臨時假設ノ避病院ニシテ流行終ル後之ヲ
取毀ツニハ其前先ツ汚穢シタル板敷板壁及柱等ハ
濃厚石炭酸水(第一)ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放
シテ大氣ニ曝スヘシ

第五　仕具、運搬器等消毒法

第十九條　吐瀉物ヲ承ケタル漱盤、便器等ハ之ヲ用フ
ル毎ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗淨スヘシ但木製
ノ便器等ハ其用ヲ終ルノ後燒却スヘシ

第二十條　患者及死体若クハ病毒ニ觸レタル物品ヲ
運ヒタル舟、車、駕籠、其他運搬器等ハ稀薄石炭酸水
(第三)ヲ灌注シ更ニ石鹸水若クハ沸湯ヲ以テ洗淨ス
ヘシ但駕籠ハ若シ甚シク吐瀉物ニ汚染シタルトキハ
之ヲ燒却スヘシ

第廿一條　患者ニ用ヒタル什具ハ總テ稀薄石炭酸水
(第二)ヲ灌キ然ル後石鹸水又ハ沸湯ニテ洗淨シ乾カ

スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其内ニ排列シ濕潤ニ堪フヘキモノハ之ヲ濕スヲ良トス亞硫酸瓦斯（第九）或ハ石炭酸蒸氣（第三）ヲ以テ一時間薫蒸スヘシ

第廿二條　病室ニ在リタル書籍、新聞紙ノ類ハ之ヲ展シ石炭酸蒸氣（第三）若クハ亞硫酸瓦斯（第九）ヲ以テ薫蒸スヘシ

第廿三條　醫術器械及木製、金屬製、陶製、漆製ノ諸器ニシテ病毒ニ觸レタルモノハ總テ稀薄石炭酸水（第二）ヲ以テ洗フヘシ

第六　厠圊溝渠等消毒法

第廿四條　患者ノ入リタル厠圊及嘔吐シタル地ニハ充分硫酸鐵合劑（第五）ヲ注キ其厠圊ノ糞汁ハ速ニ之ヲ汲取リ第九條第十一條ニ據リ處分シ其跡ヘ復硫酸鐵合劑（第五）ヲ注入シ其嘔吐シタル地ハ速ニ之ヲ掃除シ穢土ハ第九條ニ準シ處分スヘシ

第廿五條　厠圊ノ糞壺又ハ桶ノ破壞シテ病毒滲漏ノ疑アルモノハ速ニ之ヲ堀除ケ其周圍並ニ底面ノ土モ亦深ク堀取リ濃厚石炭酸水（第一）ヲ充分ニ灌注シ豫定ノ場所ニ埋却シ其跡ニモ同樣ノ消毒藥ヲ注キ更ニ新土ヲ填ムヘシ

第廿六條　若シ誤テ吐瀉物ヲ溝渠下水等ニ混入シタルトアルトキハ硫酸硫酸鐵合劑（第六）ヲ注キ其渋泥ヲ撈ヘ豫定ノ場所ニ埋却シ後多量ノ水ヲ灌キテ疏通セシムヘシ

○腸室扶私

凡ソ腸室扶私患者ノ瀉下物及之ニ汚染シタル衣服器具、等並ニ其病室、厠圊便器等ハ盡ク病毒傳播ノ恐アルモノトス故ニ左ノ區別ニ從ヒ消毒法ヲ行フヘシ

第一　患者及看護人等消毒法

第一條　患者治癒ノ後始テ他人ト交通シ又久シク患者ニ親接セル看護人ノ他人ト交通スルトキハ沐浴換衣スヘシ

第二　死体及排泄物等消毒法

第二條　死体ハ速ニ棺内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸

水(第一)ニ浸セル綿ヲ以テ肛門ヲ塞クヿヲ得ハ最良トス

第三條　瀉下物及之ニ汚穢セル紙屑布片等ハ之ヲ便器ニ承ケ稀薄石炭酸水(第一)ヲ灌キ壺或ハ桶ニ入レ戸外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第四條　避病院又ハ各病家ヨリ運搬シタル瀉下物汚穢物ハ豫定ノ場所ニ埋却スヘシ

第三　衣服、臥具等消毒法

第五條　衣服、臥具ノ瀉下物ニ汚染シタルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗浄シ或ハ之ヲ煮沸シテ後石鹸水ヲ以テ洗浄スヘシ

第四　家屋、船舶等消毒法

第六條　患者及死体ヲ置キタル家屋船舶及避病院ノ病室屍室ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫シ或ハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ拭浄スヘシ但室内ハ常ニ注意シテ空氣ヲ流通スヘシ

第五　什具、運搬器等消毒法

第七條　病室ニ用ヒタル什具ハ直ニ瀉下物ニ汚穢スルニ非レハ消毒ヲ要セサレトモ其汚穢セルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ以テ洗滌シ又ハ品種ニヨリ熱湯ヲ注キテ後石鹸水ヲ以テ洗フヘシ但木製ノ便器ハ其用ヲ終ルノ後之ヲ燒却スヘシ

第八條　患者若クハ死体ヲ運ヒタル器具ノ消毒法ハ虎列剌ノ部第二十條ヲ適用スヘシ

第六　厠圊、溝渠等消毒法

第九條　患者ノ入リタル厠圊ノ糞汁ハ硫酸鐵合劑(第五)ヲ注キテ之ヲ汲取リ豫定ノ場所ニ搬送シテ埋却スヘシ

第十條　若シ誤テ瀉下物ヲ溝渠、下水等ニ混入シタルトキハ「コロール」石灰ヲ撒布シ水ヲ以テ疏通セシムヘシ

○赤痢

凡ソ赤痢患者ノ瀉下物及之ニ汚染セル衣服、臥具等並ニ病室、厠圊便器等ハ皆病毒傳播ノ恐アルモノトス故

ニ左ノ區別ニ從ヒ消毒スヘシ

第一　患者及看護人等消毒法

第一條　患者及看護人等ノ消毒法ハ虎列剌ノ部第一條第二條ヲ適用スヘシ

第二　死体及排泄物等消毒法

第二條　死体ノ消毒法ハ虎列剌ノ部第五條ヲ適用スヘシ但此患者ノ死体ハ最腐敗シ易キヲ以テ速ニ棺内ニ斂メ且成ルヘク速ニ之ヲ火葬若クハ埋葬スヘシ

第三條　瀉下物及之ニ汚穢セル紙屑布片等ハ之ヲ便器ニ承ケ濃厚石炭酸水（第一）或ハ硫酸鐵合劑（第五）或ハ硫酸硫酸鐵合劑（第六）ヲ注キ壺或ハ桶ニ入レ戸外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第四條　避病院又ハ各病家ヨリ運搬シタル瀉下物汚穢物等ノ消毒法ハ虎列剌ノ部第九條第十條ヲ適用スヘシ

第三　衣服、臥具等消毒法

第五條　衣服臥具等ノ消毒法ハ虎列剌ノ部第十二條第十三條第十四條ヲ適用スヘシ

第四　家屋、船舶等消毒法

第六條　家屋、船舶等消毒法ハ虎列剌ノ部第十五條第十六條ヲ適用スヘシ

第五　什具、運搬器等消毒法

第七條　什具運搬器等ノ消毒法ハ虎列剌ノ部第十九條ヨリ第廿三條迄ヲ適用スヘシ

第六　厠圊溝渠等消毒法

第八條　患者ノ入リタル厠圊ハ硫酸鐵合劑（第五）ヲ注キ其糞汁ハ速ニ汲取リ豫定ノ場所ニ搬送シテ之ヲ埋却シ其糞壺ニハ同樣ノ消毒法ヲ注入スヘシ

第九條　糞壺又ハ桶ノ破壞ニ依リ病毒滲漏ノ疑アルモノ及誤テ瀉下物ヲ溝渠下水等ニ混入シタル時ノ處置方法ハ虎列剌ノ部第廿五條第廿六條ヲ適用スヘシ

○實布垤利亞

凡ソ實布垤剌亞ノ病毒ハ患者ノ痰唾及呼氣或ハ沸汁

等皆之カ傳送物タリ故ニ此等ノ排泄物ニ汚染シタル物ハ必消毒法ヲ行フヘキモノトス其區別左ノ如シ

第一　患者及看護人消毒法

第一條　患者治癒ノ後他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必沐浴シ石鹸水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ自宅療養ノ看護人及（患者死体）運搬人並ニ避病院ノ醫師看護人、死体取扱人又ハ船中等ニテ患者ト同席シタル者等ノ他人ニ接スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二條　自宅患者ニ直接セサル者親戚朋友ノ一時見舞タル者ヲ患者ニ直接セサル醫師及患者ノ家人ニシテ等其室ヲ出ルトキハ必ス鹽漱スヘシ

第二　死體及排泄物等消毒法

第三條　死體ハ醫師確認ノ後速ニ棺内ニ斂ムヘシ若シ濃厚石炭酸水（第一）ニ浸シタル綿ヲ以テ口鼻ヲ栓塞スルコトヲ得ハ最良トス但成ヘク火葬スヘシ

第四條　痰唾漿汁及此等ノ排泄物ニ汚穢セル綿布紙屑ノ類ハ稀薄石炭酸水ヲ灌キ壺或ハ桶ニ入レ戸外ニ置キ之ニ密蓋ヲナシ運搬人ニ付スヘシ

第五條　前條排泄物ハ豫定ノ場所ニ搬送シ燒却スヘシ若シ水分剰多ニシテ燒盡シ難シトキハ深ク埋却スヘシ

第三　衣服、臥具等消毒法

第六條　衣服臥具ノ甚シク汚穢シタルモノハ燒却スヘシト雖モ其汚穢スルコト甚シカラサルモノハ稀薄石炭酸水（第二）ヲ注キ浸シ置ク二廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ且洗滌シ日光ニ曝スヘシ或ハ亞硫酸瓦斯（第九）ヲ以テ薫蒸シ後日光及大氣ニ曝スヘシ

第四　家屋、船舶等消毒法

第七條　此病毒ハ極テ頑强ニシテ善ク粗糙ナル物ニ附着スルカ故ニ最注意シテ下條ノ消毒法ヲ充分ニ行フヘシ

第八條　患者及死體ヲ置キタル病室ノ疊蓆類ハ之ヲ柱ニ倚セ掛ケ戸棚等ヲ開放シ窓戸ヲ密閉シテ六時

乃至八時間亞硫酸瓦斯(第九)ヲ薫ジ然ル後窓戸ヲ開キ疊蓆壁、障子等ニハ更ニ稀薄石炭酸水(第二)ヲ撒布シ或ハ之ヲ以テ拭淨シ其他棚架及板敷等ハ石鹼水又ハ沸湯ヲ以テ洗淨シ充分大氣及日光ニ曝スヘシ

避病院ノ病室屍室又ハ臨時避病院ニ假用セシ家屋又ハ船室等モ之ニ做フヘシ但亞硫酸ノ爲メニ其色質ヲ變化スルノ恐アルモノハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薫蒸スヘシ

第五

什具、運搬器等消毒法

第九條　病室ニ用ヒタル什具、飲食器及玩具等ノ甚シク汚穢シタルモノハ之ヲ燒却スヘシ其燒却スヘカラサルモノハ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ然ル後石鹼水又ハ沸湯ニテ洗淨スヘシ其洗フヘカラサルモノハ病室ニ消毒法ヲ行フノ際其內ニ排列シ濕潤ニ堪フヘキモノハ之ニ濕スヲ可トス亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ニテ一時間薫蒸スヘシ

第十條　患者ノ玩弄セシ圖書書籍ノ類ハ之ヲ播展シ石炭酸蒸氣(第三)或ハ亞硫酸瓦斯(第九)ヲ以テ薫蒸スヘシ

第十一條　患者及死躰ヲ運搬セシ器具及醫術器械等ノ消毒法ハ虎列剌ノ部第二十條第廿三條ヲ適用スヘシ

○發疹窒扶私

凡ソ發疹窒扶私ノ毒病ハ患者及死者ノ身躰ヨリ發シテ衣服、臥具、器具ハ勿論居室ノ疊蓆屏障等ニ至ルマテ盡ク附着ノ其病毒久シク潛匿スルモノナレハ病躰及死躰ニ近接セシモノハ總テ病毒ト同視スヘシ消毒法ハ其物ニ從テ區別スルヿ左ノ如シ

第一

第一條　患者及看護人等消毒法

第一條ヲ適用スヘシ

第二條　自宅患者ヲ往診セシ醫師及患者ノ家人ニシテ患者ニ直接セサル者親朋友ノ一時見舞タル者等ハ成ヘク石鹼水或ハ醋水ニテ顏面及手ヲ洗拭ス

ヘシ

第二條　死躰及排泄物等消毒法

第三條　死躰ハ充分ニ稀薄石炭酸水(第二)ニ浸シタル單衣若クハ綿布ヲ以テ之ヲ包ミ成ヘク速ニ棺内ニ斂メ火葬スヘシ若シ止ヲ得ス埋葬スルトキハ擴穴ノ深サハ各地ノ燥濕高低ニ從ヒ凡ソ八尺以上一丈二尺以下タルヘシ

第四條　船舶航行中死者アリタルトキノ處置方法ハ虎刺ノ部第七條ヲ適用スヘシ

第五條　此病ハ必シモ排泄物ヨリ傳染セスト雖モ空氣ヲ汚スノ恐アルヲ以テ成ヘク速ニ之ヲ取除ケ病室内ニ留置スヘカラス

第三

第六條　患者ノ久シク着シタル衣服、臥具ノ汚垢ニ染ミタル者又ハ死體ニ直接シタル臥具避病院ニテ用ヒタル臥具、蚊帳等ハ成ヘク燒却スルヲ可トス其燒却ヲ憚ルヘキモノニシテ洗濯スヘキハ之ヲ桶ニ入レ稀薄石炭酸水(第二)ヲ灌キ浸シ置クコト廿四時間ニシテ更ニ沸湯ヲ注キ四五分時ヲ經ルノ後水ヲ以テ洗淨シ日光ニ曝スヘシ石炭酸等若シ缺乏スルトキハ熱湯中ニ入レ一時間以上ニ煮沸スヘシ其洗濯スヘカラサルモノハ亞硫酸瓦斯(第九)或ハ石炭酸蒸氣(第三)ヲ以テ薫蒸スヘシ

第四

第七條　家屋、船舶等消毒法

用スヘシ但病室ハ不斷換氣法ニ注意スルモ亦多少消毒ノ効アルモノトス

第八條　船舶ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第十六條ヲ適用スヘシ

第九條　臨時假設ノ避病院ヲ取毀ツニ付テノ處置方法ハ虎列刺ノ部第十八條ヲ適用スヘシ

第五

第十條　什具、運搬器等消毒法

條ヨリ第廿三條迄ヲ適用スヘシ

○痘瘡

凡ソ痘瘡ノ病毒ハ膿漿、痘痂、呼氣、津唾及死体ヨリ傳染シ又患者ノ衣服、臥具其他患者ニ接觸セシ器具及居室等ヨリモ傳染スルカ故ニ甚シク汚染セシモノハ成ヘク燒却スヘシ消毒法ハ其物ニ從テ區別スル「左ノ如シ

第一　患者及看護人等消毒法

第一條　患者治癒落痂ノ後一週日ヲ經テ初テ他人ト交通シ又ハ避病院ヨリ退出ノ節ハ必沐浴シ石鹸水ヲ用テ全身ヲ洗ヒ他ノ衣服若クハ消毒法ヲ施シタル衣服ヲ着スヘシ自宅療養ノ看護人及患者死体運搬人並ニ避病院ノ醫師死体取扱人又ハ船中等ニテ患者ト同席シタル者等ノ他人ニ接スル時モ亦此法ニ從フヘシ

第二條　自宅患者ヲ往診セル醫師及患者ノ家人ニシテ患者ニ直接セサル者、親戚朋友ノ一時見舞タル者等ハ石鹸水醋水ニテ顔面及手ヲ洗フヘシ

第二　死體消毒法

第三條　死體ノ消毒法ハ發疹窒扶私ノ部第三條ヲ適用スヘシ

第四條　船舶航行中死者アリタルトキノ處置方法ハ虎列剌ノ部第七條ヲ適用スヘシ

第三　衣服、臥具等消毒法

第五條　患者ニ係ル衣服、臥具等ノ消毒法ハ發疹窒扶私ノ部第六條ヲ適用スヘシ

第六條　避病院ノ醫師、看護人及死體運搬人等ノ衣服ニ施スヘキ消毒法モ亦前條ニ同シ

第四　家屋、船舶等消毒法

第七條　家屋等ノ消毒法ハ實布垤利亞ノ部第八條ヲ適用スヘシ

但病室ハ不斷換氣法ニ注意スルモ又多少消毒ノ効アルモノトス

第八條　船舶ノ消毒法ハ虎列剌ノ部第十六條ヲ適用スヘシ

第九條　臨時假設ノ避病院ヲ取毀ツニ付テノ處置方

佉ハ虎列刺ノ部第十八條ヲ適用スヘシ

第五

第十條　什具、運搬器等消毒法

什具、運搬器等ノ消毒法ハ虎列刺ノ部第廿條ヨリ第廿三條迄ヲ適用スヘシ

（參考）

傳染病豫防規則

○第三十四號布告　明治十三年七月九日

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條　此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸窒扶私赤痢、實布垤利亞、發疹窒扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アル時ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條　醫師ノ傳染病ヲ診斷スルモノハ遲クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通知スルヲ要ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳（東京府下ハ府廳及ヒ警視本署）ニ届出ヘシ

十八年第二號布告ヲ以テ（衛生委員）ヲ（戸長）ト改ム以下皆仝シ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出ルヲ得

警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ケナシ

第三條　地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及治癒死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ

十三年第五十四號布告ヲ以テ本項ヲ增加ス

ルトキハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

仝上但書削除ス

第四條　諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルトキハ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

仝上削除

第五條　虎列刺、赤痢、發疹窒扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムル

ルヤハ内務卿ニ具状シテ之ヲ設クルコヲ得
但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條　醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行屆カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條　掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シ十五年第四十七號ヲ以テ病名貼付ノ儀ハ當分施行セサル旨ヲ布告ス門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ
但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入リタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

第九條　虎列刺病
虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條　虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ澁リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス
但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テス其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條　虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條　虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ厠圊、芥溜、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條　虎列刺流行スルトキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ檢査シ患者若クハ死者アルトキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條　虎刺列流行ノ勢猛劇ナルトキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルコヲ得
此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル

病ヲ診斷スル時ハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ（十五年第四十八號布告ヲ以テ本項但書共追加）

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十五條　前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヿヲ得

虎列剌巳ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサヽル樣遮斷シ得ヘキモノト見認ムルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得（十年第五十八號布告ヲ以テ第二項ヲ追加ス）

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

第十六條　腸窒扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

腸窒扶私病

第十七條　赤痢納流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布垤里亞病

第十八條　實布垤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル者ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹窒扶私病

第十九條　發疹窒扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ（十三年第五十四號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス）

第二十條　發疹窒扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ每回消毒法ヲ行フコトヲ要ス

痘瘡病

第二十一條　痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ（十五年第四十八號）

布告ヲ以テ全條改正

罰則

第二十二條　醫師戸長此規則ニ違背シタル時ハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條　官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルトキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條　人民此規則ニ違背シタル時ハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

○墓地及埋葬取締細則

○甲百五十號　明治十七年十二月二十六日

本年十月太政官第二十五號布達墓地及埋葬取締規則第八條ニ依リ別紙ノ通細則相定候條此旨布達候事

（別紙）

墓地及埋葬取締細則

第一條　墓地ハ從前許可セシ區域ニ限ル若シ町村共有墓地ニシテ止ムヲ得サル事情アツテ之ヲ取廣メ又ハ新設セントスル時ハ其事由及ヒ地種地目反別等ヲ詳記シタル書面ニ實地ノ圖面並ニ接續地主ノ承諾証ヲ添ヘ町村會ノ評決ヲ經タル旨ヲ附記シ町村長地主（取廣メ又ハ新設セントスル地ノ地主ヲ云フ）管理者連署ノ上所轄警察署又ハ分署ヲ經由本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ（二年縣令第六十號ヲ以テ改正）

但已若クハ數人共有ノ墓地ハ從前許可セシ區域ノ外何等ノ事情アルニ之ヲ取廣メ又ハ新設スルコヲ許サス

第二條　共有火葬場ヲ新設シ又ハ之ヲ取廣メ若クハ改造セントスルトキハ其地種地目反別及ヒ搆造方法等ヲ詳記シタル書面ニ實地ノ圖面及ヒ接續地主ノ承諾証ヲ添ヘ共有者（町村共有ニ係ルモノハ前條ノ手續ニ依リ町村長ヨリ）三名以上地主（取廣メ又ハ新設セントスル地ノ地主ヲ云フ）管理者連印シ町村長奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

但建造物ノ改造ニ止ルモノハ本文地種地目反別ノ取調及ヒ接續地主ノ承諾書等ヲ要セス（全上）

第三條　現在ノ墓地火葬場ヲ廢止セントスルトキハ其事由及ヒ墓地ハ現在墳墓ノ移轉方法等ヲ詳記シ前條ノ手續ニ準シ本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第四條　火葬場ヲ新設シ火葬ノ營業ヲ爲サントスルトキハ其地種地目反別及ヒ構造方法等ヲ詳記シタル書面ニ實地ノ圖面及ヒ接續地主ノ承諾証ヲ添ヘ借地ナケレハ其地主連署ノ上町村長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ之ヲ取廣メ若クハ改造セントスルトキ亦全シ

（二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正）

但建造物ノ改造ニ止ルモノハ本文地種地目反別ノ取調及ヒ接續地主ノ承諾証等ヲ要セス

第五條　火葬營業者改氏名又ハ代替轉居等ノ節ハ戸長衙生委員ノ奥印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署ヲ經由シ本縣廳ヘ屆出ヘシ

第六條　火葬營業者火葬場ヲ賣買讓與シタルトキハ直チニ双方連署（借地ナレハ其地主トモ）ノ書面ニ町村長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署ヲ經由シ本縣廳ヘ屆出ヘシ

（二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正）

第七條　墓地ヲ新設スルハ國道縣道鉄道大川其他人家ヲ隔ルヿ凡六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障リナキ地ヲ撰ムヘシ

第八條　墓地ノ周圍（墓地ト墓地ニ非サル地トノ境界ヲ云フ）ニ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀墻ヲ存スヘカラス

但從前ヨリ現存スルモノハ此限リニアラス

第九條　町村共有墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルヿヲ得若シ其町村ニ共有墓地ナキ時ハ最寄町村共有墓地ニ葬ルヿヲ得

但死刑ニ處セラレタルモノハ墓地ノ一隅ヲ區劃シ其内ニ埋葬スルモノトス

第十條　火葬場ハ人家及ヒ人民輻湊ノ地ヲ隔ルヿ凡百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ニテ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲シ其周圍ニ塀墻ヲ設ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ本縣廳ヘ屆出ヘシ

（二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正）

ク ヘシ（十八年甲第八十七號布達ニテ火葬場ノ下（ヲ新設スル）ノ五字ヲ削除ス）

但山林原野ニシテ人家ヲ隔タル場所ハ本文ノ裝置ヲ要セスト雖モ適宜見隱ヲ設クヘシ

第十一條　町村共有ノ墓地及火葬場ハ町村長ニ於テ管理者ヲ定ムヘシ其他ハ所有者ニ於テ之ヲ定メ其住所氏名ヲ町村役場ヘ届出ヘシ變更シタル亦同シ（二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正）

第十二條　管理者ハ時々墓地又ハ火葬場ヲ見廻リ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ墓碑又ハ火爐煙筒其他塀墻等ノ崩壞セントスルモノアルヲ見認ルトキハ速ニ補理ノ手續ヲ爲スヘシ（二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正）

第十三條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスル者ハ死亡届書ニ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘ町村役場ヘ届出認許証ヲ受ケ墓地又ハ火葬場ノ管理者ヘ差出スヘシ（二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正）

但火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルハ別ニ認許証ヲ受クルニ及ハス

第十四條　左ノ場合ニ於テハ前條主治醫ノ死亡届書ニ代フルニ左ノ証書ヲ添付スヘシ

一主治醫事故アルトキハ他ノ醫師ノ檢案証書

一醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノハ醫師ノ檢案証書

一姙娠四ケ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死產証書

一變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案証書

但檢視官ノ檢印ヲ要ス

一囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セントスルトキハ獄醫ノ死亡証書寫

但司獄官ノ檢印ヲ要ス

第十五條　改葬セントスル者ハ改葬願書ニ墓地管理者連署ノ上町村長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ノ証ヲ受ケ其改葬スヘキ墓地ノ管理者ヘ差出スヘシ（二十二年縣令第六十號ヲ以テ改正）

第十六條　管理者ニ於テ第十三條第十五條ノ証書ヲ

受取リタルトキハ其余白ヘ埋葬又ハ火葬若クハ改葬セシ年月日時ヲ記入捺印シ毎三ケ月（三月六月九月十二月）分取纏メ翌月十日限リ所轄警察署又ハ分署ヘ差出シ檢印ヲ受ケ町村役場ヘ差出スヘシ（全上）

但一己墓地ヘ埋葬又ハ改葬スルモノハ其都度本文仝樣ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條　現ニ墓主ナキ墳墓ト雖モ濫ニ墓碑ヲ取除キ又ハ他ヘ移轉スルヲ許サス若シ止ムヲ得サル事情アリテ他ヘ移轉セント欲スルトキハ其事由ヲ詳記シタル書面ニ町村長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ（全上）

第十八條　火葬ハ成ルヘク日沒後之ヲ行フヘシ

第十九條　壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ此限リニアラス

第二十條　誌名傳贊等ヲ刻シタル碑表ヲ建設セント欲スル者ハ其地種地目並ニ碑文及ヒ碑表ノ寸法材質等ヲ詳記シタル書面ニ實地ノ圖面ヲ添ヘ地主（墓地ナレハ管理者）連署シ町村長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ（二十二年縣令第十六號ヲ以テ改正）

但死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及ヒ生死ノ年月日建設者ノ姓名等ヲ刻スルニ止マル墓碑ヲ墓地内ヘ建設スルハ許可ヲ受クルニ及ハス

第二十一條　墓碑又ハ火爐烟筒塀墻等ノ搆造不完全ニシテ危險若クハ衞生上妨害アリト見認ルトキハ修繕又ハ取除ヲ命スルコトアルヘシ

但火葬場修繕中ハ時宜ニ依リ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十二條　共有墓地管理者ハ墓地ノ圖面並ニ墓籍帳ヲ調製シ該帳簿ニハ左ニ記列シタル事項ヲ遺漏ナク記入シ保存スヘシ

一墓主ノ住所氏名

一死亡者ノ住所氏名

一死亡者ノ法號又ハ諡號

一埋葬又ハ改葬ノ年月日
一墓碑建設ノ年月日
第二十三條　時機ニ依リ警察官ハ葬儀場ヘ臨監又ハ死体ヲ檢案スルコトアルヘシ
第二十四條　墓地及埋葬取締規則並ニ此細則第十七條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

死亡届書

右本日午前(又ハ午後)第何時病死(又ハ變死)致候ニ付何郡何町村字何々墓地(又ハ火葬場)ヘ埋葬(又ハ火葬)致度仍テ別紙主治醫某ノ死亡届書(又ハ醫師某ノ檢案書)相添御届仕候條埋葬(又ハ火葬)認許証御下渡被下度候也

年號月日

父(又ハ何々)
氏　名　年齢

住所身分職業

氏　名印

何郡何町村長氏名殿

(二十二年縣令第六十號ヲ以テ書式中戸長トアルヲ町村長トシ凡テ奥印ノ例ヲ删除)

死産届書

妻(又ハ何々)
氏　名

右娠何ケ月ノ處本日午前(又ハ午後)第何時男子(又ハ女子)死産致候ニ付何郡何町村字何々墓地(又ハ火葬場)ヘ埋葬(又ハ火葬)致度仍テ別紙醫師(又ハ産婆)某ノ死産証書相添御届仕候條埋葬(又ハ火葬)認許証御下渡被下度候也

年號月日

住所身分職業

何郡何町村
町村長氏名殿

氏　名印

改葬願書

父(又ハ何々)

氏名

右去ル何年何月何日死亡致條ニ付該死屍(又ハ火葬ノ上該遺骨)ヲ何郡何町村字何々墓地ヘ埋葬(又ハ埋藏)致置候處今般何々ノ事故有之候間何郡何町村字何々墓地ヘ改葬致度仍テ改葬御免許証御下渡被下度此段奉願候也

年號月日

住所身分職業

氏名印

何郡何町村字何々墓地

管理者(現在埋葬又ハ埋藏アル墓地ノ管理者ナリ)

氏名印

滋賀縣

何警察署(又ハ何分署)

御中

(參考)

○太政官第二十五號布達　明治十七年十月四日

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條　墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限モノトス

第二條　墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受ヘキモノトス

第三條　死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスヿヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條　區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナスヘカラス

第六條　葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行クヘシ

第七條　凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條　此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

右布達候事

○甲第百十八號　明治十八年八月十二日

傳染病死體ト雖モ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス候處病毒ノ豫防ニ要用ナル場合ニ於テハ掛官吏ノ許可ヲ受ケ二十四時間以内ニ埋葬又ハ火葬スルヲ得此旨布達候事

但本條ノ場合ニ於テハ掛官吏ニ於テ之レヲ指揮シ時間ニ拘ハラス埋葬又ハ火葬セシムルコトアルヘシ

○水車營業規則

明治十五年六月十六日

○甲百十號　明治十五年六月十六日

水車營業規則別紙ノ通リ相定本年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但從前布達達指令等別紙規則ニ抵觸スル者ハ總テ消滅候儀ト可心得事

（別紙）

水車營業規則

第一條　水車營業ヲナサントスルモノハ左ノ項目ヲ詳記シ水路及近傍地景ヲ明瞭ニ縮寫シタル畫圖面ヲ相添地元ハ勿論水路ニ沿フ上下町村戸長ノ奥印ヲ以テ郡役所ヘ願出テ免許ヲ受クヘシ

一水車設置ノ町村名字番號

一水路ノ字

一車輪ノ寸法

一揭（雌又ハ粉挽臼ノ數

一他ノ機關ニ用ユルモノハ其所ノ詳細

一年中稼ニアラサルモノハ其稼月數及事由

第二條　水車設置ノ場所ヲ移轉シ又ハ碓臼ノ數ヲ增減シ（他ノ機關ニ用ユルモノハ其機關ノ變更增減）稼月數ヲ伸縮セントスルモノハ第一條ノ手續ヲ以テ郡役所ヘ願出免許ヲ受クヘシ

但場所移轉ノ外ハ書圖面ヲ添ルニ及ハス

第三條　水車ヲ賣買讓與シタルトキハ賣買又ハ讓渡人讓受人連署シ地元戶長ノ奥印ヲ以テ郡役所ヘ屆出ヘシ

第四條　水車營業免許ヲ得テ起業スルモノト雖モ他ノ妨害ヲ生スルトキハ取拂ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　水車ニ賦課スル地方稅ハ營業稅雜種稅賦課規則ノ通リタルヘシ

第六條　第一條第二條ノ手續ヲ爲サスシテ水車ヲ新設シ又ハ移轉シ碓臼其他ヲ增減變更シタルモノハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ

（參考）

○甲第百三十八號　明治十五年十月四日

自用ノ水車ト雖モ新設移轉又ハ碓臼其他ヲ增減變更スルトキハ都テ本年六月甲第百十號布達水車營業規則ノ通可相心得此旨相達候事

○醬麴受賣規則　明治二十一年二月廿一日

○縣令第四十一號

醬麴受賣規則左ノ通相定ム

醬麴受賣規則

第一條　醬麴受賣ヲナサントスルモノハ左ノ條項ヲ遵守スヘシ

第二條　醬麴受賣カハ左ノ雛形ニ倣ヒ標札ヲ調製シ戶外ニ掲出スヘシ

○醬麴受賣所

何縣何國何郡何町村何　某

寸法竪三尺横八寸

木質適宜

第三條　受賣者ハ買入帳及賣上帳ヲ調製シ左ノ件々

ヲ記載スヘシ

第一　買入帳

此帳簿ニハ醬麹買入石數營業人ノ住所氏名年月日等遺漏ナク記載スヘシ

第二　賣上帳

此帳簿ニハ自用者ノ住所氏名年月日賣渡シタル醬麹ノ數量鑑札番號等遺漏ナク記載スヘシ

第四第　前條ニ記載シタル帳簿ハ毎年十月其區租稅檢查員派出所ニ差出シ檢查ヲ受クヘシ

但檢查ヲ受ケタル帳簿ハ營業中保存スヘシ

第五條　受賣者不在若クハ事故アルトキハ相當代理者ヲ定メ置クヘシ

第六條　自用者ヘ醬麹ヲ販賣スルトキハ自家用料酒製造免許鑑札ヲ認メタル上ニ非サレハ賣渡スルコトヲ許サス

第七條　醬麹受賣所ハ隨時主任官ニシテ賣買ニ係ル帳簿及ヒ現在醬麹ノ石高營業場等ヲ檢查セシメ時宜ニヨリ其他ノ場所ト雖モ點檢セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ受賣人若クハ代理者案內ヲナスヘシ

第八條　受賣者ニシテ第四條ニ記載シタル帳簿ノ登記ヲ怠リ又ハ詐僞ノ記載ヲナシタルモノハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○自家用料酒免許鑑札ヲ檢セスシテ醬麹ヲ賣渡スヘカラサル禁令

○縣令第四十二號　明治二十一年二月廿一日

醬麹營業受賣人ニシテ自家用料酒製造免許鑑札ヲ點檢スル自用者ヘ醬麹ヲ賣渡シタルモノハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○酒造營業者取締　明治十六年五月三十一日

○甲第五十九號

酒造營業者ニシテ左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘク候條此旨布達候事

一　酒醪ノ不用ニ屬シタルモノ仝業者中賣買ヲナサントスル時撿査ヲ受ケサル者（十七年甲第三十七號布達ヲ以テ改正）

二　撿査ヲ經サル醪ヲ搾リタル者（二十一年縣令第四十九號ヲ以テ更正）

三　撿査ヲ受ケスシテ二類酒三類酒ノ製造ニ用ユル元粕及ヒ酒類ヲ使用シタル者

四　造石撿査ノ以前ニ於テ酒類ノ火入滓引等ヲ爲シタル者

五　酒類ノ粕漉ヲ爲スヰ撿査ヲ受ケスシテ着手シ又ハ之ヲ搾リ揚ケ撿査ヲ受ケスシテ販賣自用贈與等ニ供シタル者

六　撿査未濟ノ酒類ヲ覆ヘシ又ハ漏洩シタル等ノヰ直チニ屆出サル者

○米質改良組合取締規則

○縣令第二百四十七號　明治二十年十二月廿七日

米質改良組合取締規則左ノ通相定ム

米質改良組合取締規則

第一條　米質改良組合ハ縣下ニ於テ自ラ米穀ヲ作リ又ハ他人ヲシテ作ラシメ他ニ販賣スルモノ及米穀ノ賣買ニ從事スルモノヲ以テ組織スヘシ

第二條　自ラ米穀ヲ作リ又ハ他人ヲシテ作ラシムルモノニシテ他ニ販賣セサルモノト雖モ苟モ米穀ヲ以テ他ノ物品ニ交換シ又ハ物品買入ノ代料ニ供シ若クハ小作米トシテ地主ニ納ムルモノハ渾テ前條ヨリ組織シタル組合ニ加入スヘシ（二十二年縣令第三十七號ヲ以テ改正）

第三條　米質改良組合ハ滋賀郡大津便宜ノ地ニ取締所ヲ設ケ組合ニ係ル一切ノ事務ヲ總轄スヘシ

第四條　米質改良組合ハ縣下ヲ數部ニ分チ各部ニ取締所ノ出張所ヲ設ケテ取締所ノ事務ヲ分擔シ併テ其部內限リ設クル所ノ規約ノ實施ヲ管理スヘシ

但各部ノ區域ハ郡役所々轄外ニ跨ルヲ得ス

第五條　組合ニハ相當ノ役員ヲ撰置シ縣廳ノ認可ヲ許クヘシ

但時宜ニ依リ改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　組合役員ハ勸業委員其他同業者外ヨリ撰擧

スルヲ得

第七條　組合員ハ組合證票ヲ携帶スヘシ

第八條　組合ニ係ル費用ハ組合員之ヲ負擔スヘシ

但他人ノ地所ノミヲ小作スルモノ及第二條ニ該當スルモノハ此限ニ非スト雖モ米穀檢査ニ係ル費用ハ之ヲ負擔スヘシ（二十二年縣令第三十七號ヲ以テ但書改正）

第九條　組合員ハ左ノ各項ニ從ヒ規約ヲ設ケ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

一米質及調製ノ改良ヲ圖ル事

一俵裝ヲ完全ニシ桝入及桝ノ種類ヲ一定スル事

一現品ニ營業人ノ住所氏名ヲ記シタル證票ヲ添付スル事

一檢查方法ヲ定ムル事

一品質ノ良否其他ニ依リ俵面ヘ一定ノ記號ヲ付スル事

一他府縣産ノ米穀取扱ノ方法ヲ定ムル事

一小作者奬勵ニ係ル方法ヲ定ムル事（二十三年縣令第十號ヲ以テ追加）

一取締所及出張所ノ位置

一役員撰擧法及任期

一仝上事務條項及權限

一諸費豫算及賦課方法

一會議ニ關スル規程

一違約者處分法

一前諸項ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第十條　前條ニ揭クル各項ノ事ニ關シ各部限リ必要トスル事項ハ其部內組合員ノ協議ヲ以テ規約ヲ定メ取締所ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但本條ニ據リ規約ノ認可ヲ受ケタルトキハ其規約書ヲ添ヘ所管郡役所ヘ届出ヘシ

第十一條　各出張所ノ事務ハ所管郡役所ニ於テ常ニ監督シ若シ異狀アルトキハ其時々具申スヘシ

第十二條　第一條第二條ニ揭クル組合員タルヘキ者コレテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加盟セサルモノハ違警罪トシ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ以ハ拾

錢上以壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ（二十二年縣令第三十七號ヲ以テ改正）

附則

一本條ニ據リ設定スヘキ組合及規約ハ來明治二十一年六月三十日限リ取設ケ認可ヲ受クヘシ

一前項組合及規約設定ノ爲メ每郡三名ノ委員ヲ撰擧シ同年五月三十一日迄ニ其住所姓名ヲ縣廳ヘ屆出ヘシ

但滋賀郡大津市街ニ限リ本項定員ノ外更ニ米商人中ニ於テ三名ノ委員ヲ撰擧スヘシ

一委員撰擧ノ事務ハ所管郡役所ニ於テ取扱フヘシ

一本則ハ同年米穀ノ收獲ヲ期トシ實施スルモノトス

○蠶糸業組合規則　明治十八年十二月廿一日　甲第百七十七號

今般蠶糸業組合規則左ノ通相定メ來明治十九年二月ヨリ實施候條此旨布達候事

但明治十七年本縣甲第百廿四號並同十八年甲第八十九號布達ハ本文實施ノ日ヨリ廢止ス

蠶糸業組合規則

第一條　縣下ニ於テ蠶糸業（養蠶製絲蠶種繭買綿生皮苧麪斗糸等）ニ從事スルモノハ製造人ト賣買人トヲ不問都テ此規則ニ準據スヘシ

但自用ノ爲メ製造スルモノハ此限ニアラス

第二條　蠶糸業者ハ最寄郡町村ニ於テ聯合組合ヲ設ケ其名稱ハ滋賀縣下何郡何（數町村聯合ノモノハ何郡東西南北等ノ次第ヲ以テ區別スヘシ）蠶糸業組合ト稱スヘシ

第三條　組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受ク可シ

第一項　繭ハ春夏秋若クハ黃白及種類（姬子青熟赤熟小石丸等）又ハ大陽殺蒸殺燥殺等ヲ混淆シタルモノヲ賣買セサル事

第二項　製糸ニ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事

第三項　桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ全ク異ナラシムル事

第四項　繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事

第五項　繭ヲ荷造シテ他ニ轉出スル時ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第六項　生糸眞綿ノ製造及結束其他生皮苧屑斗糸等ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサル事

第七項　生糸眞綿等ノ結束用品及裝束方ヲ一樣ナラシムル事

第八項　仝上結束用品ニ撚紙元絡麻等ヲ用フルモノハ賣買上歩引ノ量目ハ二分五厘以内ヲ定ムル事

第九項　綾取アル揚簍ヲ用ヒ且ツ寸法綛ノ目量ヲ一定ナラシムル事

第十項　一梱一綛若クハ一把中異否混淆ハ勿論他物又ハ鼠噛汚糸等ノ惡品ヲ藏蔽シタル不正ノ品ヲ賣買製造セサル事

第十一項　第八項ノ結束用品ニハ記號若クハ住所姓名ヲ印シ其自己ノ製品タルヲ徵スルニ足ルノ方法ヲ設クル事

第十二項　提造島田造折返等ノ生糸ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買セサル事

第十三項　生糸改眞ノ方法及海外輸出糸ノ統合檢查手續並ニ其手數料ヲ定ムル事

第十四項　生糸ヲ荷造シ他ニ輸出スルトキハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第十五項　蠶種及其出殼繭ヲ併セテ檢查スルノ方法ヲ設クル事

第十六項　蠶病ヲ豫防スルノ方法ヲ設クル事

第十七項　連接繭ヲ蠶種用ニ供セサル事

第十八項　蠶種ニハ必春夏秋ノ區別並ニ其種類組合ノ名稱製造人販賣人ノ住所姓名其他異否ノ檢證ヲ記印シ又ハ保証票ヲ貼付スル事

第十九項　同上量目及其用紙ヲ一定スル事
第二十項　粗惡ノ纖種ヲ製造賣買セサル事
第廿一項　工男女取締ニ關スル事
第廿二項　違約者及違約品處分方法ノ事
第廿三項　會議ニ關スル規定ノ事
第廿四項　收支豫算及賦課方法ノ事
第廿五項　役員ノ撰擧法及權限並ニ處務順序ノ事
第廿六項　前各項ノ外組合中ニ於テ必要トスル事項

第四條　組合員ハ製造人ト賣買人トヲ不問必其組合ノ証票ヲ携帶スヘシ
但証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第五條　賣買ニ從事スルモノハ前條組合証票ノ外別ニ商業証票ヲ携帶スヘシ

第六條　縣下便宜ノ地ニ取締所一ケ所ヲ設ケ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ

第七條　組合ニハ委員取締所ニハ頭取々締ヲ撰擧シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ若シ本縣ニ於テ不適任ト見認メタル場合ニハ更ニ改撰ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　取締所ニ於テハ全業者中ヨリ製糸製種ノ檢査役ヲ撰定シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
但時宜ニヨリ本縣ニ於テ撰定スルコトモアルヘシ

第九條　組合委員並ニ取締所役員ハ勸業委員其他同業者外ヨリ撰擧スルヲ得ヘシ

第十條　組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ

第十一條　各府縣纖系業組合中央部ヲ設ケ彼是ノ氣脈ヲ通スヘシ
組合取締所ト協議ノ上便宜ノ地ニ纖系

第十二條　組合及取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ集議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條　讀糸業者ニシテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加盟セサル者ハ違警罪トシテ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處スヘシ

○織物業取締規則

○甲第百八十五號　明治十八年十二月廿六日

織物業取業規則別紙ノ通相定來明治十九年三月一日ヨリ實施候條此旨布達候事

（別紙）

織物業取締規則

第一條　織物業ヲ分テ左ノ四種トス（十九年甲第二十六號布達ヲ以テ第一條改正）

第一種　縮緬及絹縮

第二種　麻布

第三種　蚊帳

第四種　木綿縮

第二條　縣下ニ於テ前條織物業ニ從事スル者ハ製造人ト賣買人トヲ問ハス都テ此規則ニ準據スヘシ

但自用ノミニ供スル者ハ此限ニアラス

第三條　營業人ハ一種毎ニ一ノ組合ヲ設ケ左ノ各項ニ據リ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ改正增補ノ時亦同シ

第一　織物ノ尺幅及織付歩引耳糸等其種類ニ應シ一定シ且ツ織留ノ証ヲ設クル事

第二　織物ノ元料ヲ精撰シ不正若クハ粗惡品ヲ用サル事

第三　染色ヲ改良シ不正若クハ染惡ナル染料ヲ用ヒサル事

第四　製品ニ製造人ノ住所姓名及品質等ヲ詳記シタル証票ヲ貼付シ且ツ檢查ノ方法ヲ設クル事

第五　製造人ト賣買人及傭主ト職工ノ關係ヲ一定

スル事
第六　違約者處分法及職工奬勵ニ關スル事
第七　諸費豫算及徴收方法ノ事
第八　諸役員ノ事務條項及權限
第九　諸役員ノ給料及旅費等ノ定額
第十　前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項
第四條　各種組合ニハ一種毎ニ取締所一ケ所ヲ設ケ
組合ニ係ル一切ノ事務ヲ整理スヘシ
第五條　取締所ニハ同業者ノ投票ヲ以テ相當ノ役員
ヲ撰置シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
但時宜ニ依リ改撰ヲ命スルコトアルヘシ
第六條　取締所ノ役員ハ勸業委員其他同業者ヨリ撰
擧スルヲ得ヘシ
第七條　各組合員ハ其組合ノ証票ヲ携帶スヘシ
但証票ニハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ
第八條　各組合取締所ハ毎年一月中其前年分ノ事蹟
及費用決算表ヲ縣廳ヘ報告スヘシ

第九條　營業人ニシテ組合ヲ設ケス又ハ組合ニ加盟
セサル者ハ違警罪トシ二日以上五日以下ノ拘留ニ
處シ又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス
ヘシ

○甲第百四十號　明治十七年十二月九日

○同業組合準則

營業上福利ヲ增進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スル爲メ同業
者組合ヲ結ヒ規約ヲ定ムル者ハ自今別紙同業組合準
則ニ可準此旨布達候事
（別紙）

同業組合準則

第一條　農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ
其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスル
時ハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以
上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作リ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ
第二條　同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利
益ヲ圖ルヲ以テ目的トナスヘシ

第三條　同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ
第一項　組合ヲ組織スル業名及ヒ組合ノ名稱
第二項　組合ノ地區及事務所ノ位置
第三項　目的及方法
第四項　役員ノ撰擧法及權限
第五項　會議ニ關スル規程
第六項　加入者及ヒ退去者ニ關スル規程
第七項　費用ノ徵收及賦課法
第八項　違約者處分ノ方法
右ノ外組合ニ於テ必要トナス事
第四條　組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ
但事業ノ摸樣及ヒ趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルトキハ縣廳ノ認定ヲ請フヘシ
第五條　同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第六條　同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年縣廳ニ報告スヘシ
第七條　規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ受クヘシ
第八條　分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作リ認可ヲ受クヘシ
第九條　同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作リ認可ヲ受クヘシ
但其聯合二府縣以上ニ渉ルトキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ
第十條　組合員ハ組合ノ檢印ヲ押捺シテ業名票ヲ店頭ヘ掲クヘシ（十九年甲第三十八號布達ヲ以テ追加）

○市場取締規則

○甲第三號　明治十九年一月二十八日
市場取締規則別紙ノ通相定候條從來開設致尚繼續セントスルモノハ來ル二月二十八日迄ニ夫々決定ノ上本廳ニ可申出此旨布達候事
但明治十五年一月本縣甲第十五號第三條第一項及仝

年同月甲第十六號布達ハ廢止候事

（別紙）

市場取締規則

第一條　市場ヲ分テ左ノ三種トス

第一種　常ニ時日及場所ヲ定メ物品ノ出賣ヲ爲ス
　モノ

第二種　常ニ時日及場所ヲ定メ賣買主ノ中間ニ立
　チ物品ノ競賣ヲナスモノ

第三種　臨時前二種ノ市場ヲ開設スルモノ
　但營業ニアラサル自家ノ物品ヲ一時競賣スル
　モノハ此限ニアラス

第二條　第一種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ左ノ
各項ニ據リ規程ヲ定メ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ

一賣品ノ種類及取扱手續

一開市ノ日時並ニ市場ノ位置

一物品受渡順序

一口錢其他手數料等ノ定額

一賣上金ノ收入及荷主ヘ勘定ノ手續

一前各項ノ外市場ニ關スル規程

第三條　第二種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ前條
第一項第二項第四項（若シ之アラハ）第六項ニ據リ規
程ヲ定メ縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第四條　第三種ノ市場ヲ開設セントスルモノハ其位
置及開市ノ時日並賣品ノ種類等ヲ詳記シタル書面
ヲ以テ所管警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受クヘシ
（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ挿入第五第七條亦仝シ）

第五條　第一種及第二種ノ市場開設ノ許可ヲ得タル
時ハ其旨所管警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ

第六條　同町村及隣接町村ニ於テ同性質ノ市場ヲ開
設スルモノニシテ營業上保護ニ必要ト認ムルトキ
ハ特ニ免許區域ヲ指定シ又ハ雙方ヘ規約ノ締結ヲ
命スルコトアルヘシ若シ其命ヲ拒ミ又ハ遷延スル
トキハ其一方若クハ雙方ノ市場ヲ停止スヘシ（二十
年縣令第二百四十九號ヲ以テ改正）

第七條　第二種ノ市場開設スルニ多人數組合若クハ數町村相合スル取締ノ責ニ任セシメ且其住所姓名ハ縣廳及所管警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ

第八條　第一種ノ市場ヲ開設スルモノハ毎年一月中其前年分市場ノ景況及賣上金高口錢手數料等ノ明細表ヲ製シ縣廳ヘ報告スヘシ

第九條　此規則第二條第三條第四條第五條ニ違背シタルモノハ違警罪トシ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處スヘシ

○陸上用蒸瀛機關檢查規則

○縣令第二百十五號　明治二十年十一月一日

陸上用蒸瀛機關檢查規則左ノ通相定ム

但從來瀛機ヲ使用スル諸工場其他ハ本則第一條ニ準シ來明治二十一年三月三十一日迄ニ願出ヅヘシ

陸上用蒸機瀛關檢查規則

第一條　諸工場其他ニ於テ蒸瀛機關ヲ使用セントスルモノハ使用前本則第一號書式ニ據リタル願書ニ四隣接續（構外四方三十間以内）家主ノ承諾書ヲ添ヘ檢查ヲ願出ヘシ

但明治十九年十二月縣令甲第五十二號家屋建築規則施行區域外ニ係ルトキハ工場ノ構造方法ヲ詳記シタル圖面ヲ添付スヘシ

第二條　檢查ノ上危險ト認ムルトキハ修繕又ハ改造ヲ命ス

第三條　前條ノ場合ニ於テハ速ニ修繕又ハ改造ヲ爲シ更ニ檢查ヲ受クヘシ

第四條　每瀛罐ニハ火床面積一平方呎ニ付二分ノ一平方吋ノ割合ヲ以テ二個ノ安全瓣ヲ備ヘ內一個ハ鎖鑰ヲ設クヘシ

第五條　安全瓣ノ鎖鑰ニハ檢查濟ノ上檢查官於ニテ封鎖シ私ニ開閉スルコトヲ禁ス

第六條　罐檢查ノ上檢定シタル最大瀛力ヲ增加スルコトヲ禁ス

第七條　新ニ瀝罐ヲ增設セントスル者ハ本則第一條ニ隨ヒ又機械瀝罐ノ要部ヲ修理若クハ改造セントスルトキハ直ニ届出檢査ヲ受クヘシ出來ノ上モ亦仝シ

第八條　定期檢査トシテ毎年三四兩月間ニ檢査官ヲ派シ檢査ヲ執行ス其檢査濟ノモノハ本則第二號雛形ノ檢査假證書ヲ下附シ追テ第三號雛形本證書ト引換交附スヘシ

第九條　臨時檢査トシテ檢査官ヲシテ臨時巡視セシムルコアルヘシ此際檢査官ニ於テ瀝機ニ危險ノ掛念アリト見認ムルトキハ其使用ヲ中止シ審査ノ上修理等ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　本則第三條及第七條后段ノ場合ニ於テ檢査濟ノ上已ニ下付シタル檢査證書面ニ變更ヲ生シタルトキハ本則第八條后段ノ手續ヲ爲シ其變更セサルモノハ證書裏面ヘ檢査官ニ於テ其事故ヲ記載シ檢印ノ上之ヲ交付スヘシ

第十一條　檢査證書ハ諸人ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第十二條　瀝機瀝罐ノ事ニ從ハシムル主任者ハ其族籍姓名及履歷ヲ詳記シタル書面ヲ以テ本廳ヘ願出認可ヲ受クヘシ雇換ノ都度亦仝シ

第十三條　廢業轉居其他身分ニ異動アルトキ及ヒ瀝機瀝罐ニ異狀アルトキハ直ニ届出ヘシ

第十四條　本則第一條第三條第五條第六條第七條第十一條第十二條第十三條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處スヘシ

（第一號書式）

蒸瀝機關檢査願

一工場（其他）所在

一工場（其他）名稱及種類

一所有主

一滊罐ノ種類及員數
一最大滊力
一機械ノ種類及員數
一公稱馬力
一滊機製造年月
一滊機製造所(人)名
右者今般新設營業致度候間何月何日御出張ノ上御
撿査被成下度願上候也
年月日　所有主　氏　名印
縣知事宛

（第二號雛形）

六寸

番號		工場所在地名	
證書有効期限		所主氏名	
滊機種類		公稱馬力	

六寸五分

滊罐種類		最大滊壓	

右撿査ノ上此假證書ヲ附與スルモノ也
滋賀縣
明治年月日　官　氏　名

（第三號雛形）

六寸

番號		工場所在地名	
證書有効期限		所主氏名	
滊機種類		公稱馬力	
滊罐種類		最大滊壓	

六寸五分

右撿査ノ上本書期限中使用ニ適當ナル報告ヲ得ルニ依

リ此證書ヲ附與スルモノ也

明治年月日　滋賀縣

○甲第三十六號　明治十八年三月十一日

○旅客和船取締規則

旅客和船取締規則別冊ノ通相定メ來ル四月十五日ヨリ實施候條此旨布達候事

但從前營業者ニシテ引續營業セントスル者ハ本文日限マテニ願出免許ヲ受クヘシ

（別冊）

旅客和船取締規則

第一條　湖上ニ於テ和船ヲ以テ旅客ヲ乘載シ渡航ヲ營業スルハ從來早船ト稱スル甲板ヲ備フル船ニシテ舳艫間三間以上ノモノニ限ルヘシ

但近傍小渡ニシテ特ニ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第二條　前條早船營業ヲ爲サントスル者ハ其船名船体及ヒ附屬品並ニ乘組人員發着寄港等ヲ詳記シ其定繫港所轄ノ警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改正）

但結社營業ヲ爲サントスル者ハ先ツ其目的及ヒ資本募集等ノ方法ヲ詳記シタル願書ヲ以テ所轄郡役所ヲ經由シ本縣廳ノ認可ヲ受クヘシ（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ挿入改正）

第三條　早船ハ船体堅牢ニシテ所轄警察署又ハ分署ノ免許証ヲ受ケ平常船燈號角豫備ノ艫櫓其他相當ノ附屬品ヲ整備シタルモノニアラサレハ運航スルコトヲ得ス（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改正）

但免許証ハ「客」室ノ見易キ所ニ釘付スヘシ

第四條　早船ハ舳梁ヨリ艫梁迄ノ間面積三坪未滿ハ櫓四挺水夫五人ヲ備フヘシ三坪以上一坪ヲ增ス每ニ櫓一挺水夫一人ヲ增スヘシ

其水夫ハ强壯ニシテ實業ニ耐ユル者ニ限ルヘシ

第五條　早船ハ舳梁ヨリ艫梁マテノ間ニ於テ適宜客室ヲ設ケ判然荷室ト區域ヲ立テ一坪（六尺四方）ニ乘客八人ヨリ超過スヘカラス（十八年甲第六十二號達ニテ改正）

但客室外ヘ客ヲ乘セ又ハ客室内ヘ荷物ヲ載スヘカラス

第六條　早船ヲ用ヒス近傍小渡船營業ヲ爲ナサントスル者ハ其船体乘組人員及ヒ發着港等ヲ詳記シ其定繫港所轄ノ警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ（二十二年縣令第二十九號ヲ以テ改正）

但免許証ハ船中見易キ所ニ釘付スヘシ

第七條　前條小渡船乘客人員ハ舳梁ヨリ艫梁マテノ間面積一坪（六尺四方）八人ヨリ超過スヘカラス

第八條　早船及ヒ小渡船ノ賃錢ハ最寄同業者ニ於テ協議ノ上相定メ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ變更シタルトキ亦仝シ（上仝）

但早船ハ出船時刻ヲモ屆出ヘシ

第九條　早船及ヒ小渡營業者免許証ヲ毀失シ其他免許証ニ列記シタル條件ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出訂正又ハ再渡ヲ請ヒ廢業ノ節ハ其旨屆出免許証返納スヘシ（上仝）

第十條　乘客及ヒ物貨ヲ取扱フニハ懇切ヲ旨トシ若シ渡航中異變アルトキハ最寄警察署又ハ分署巡査駐在所若クハ巡行警察官ヘ申出指揮ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ成ルヘク乘客及ヒ物貨ノ上陸ヲ止メ置クヘシ（仝上）

但難破ノ節ハ難破船規則ニ從フヘシ

第十一條　渡湖中他船ト速力ヲ競爭シ其他危險ノ所爲ヲ爲スヘカラサルハ勿論暴風等ノ節ハ運航ヲ爲スヘカラス

第十二條　強テ乘船ヲ勸メ又ハ乘客ニ對シ定價以上ノ賃金ヲ請求シ或ハ客引ヲ出シ若クハ人力車夫等ト申合其他種々ノ手段ヲ以テ乘客ヲ誘引スルヲ禁ス（十八年甲第六十二號達ニテ改正）

第十三條　早船營業者ニシテ運送問屋旅籠屋等ヘ手

數料等ヲ付與スルヿアルモ運賃定額ノ壹割ヨリ超過スルヿヲ得ス（全上改正）

第十四條　警察官ハ時々船体其他附屬品等ヲ檢査シ船体ニ破損所アルカ又ハ本則ニ違背シタル廉アルトキハ時宜ニ依リ臨時運航ヲ停止スルコトアルヘシ

第十五條　官許ヲ得ス營業シ又ハ停止中私ニ運航シ若クハ此規則第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十一條第十二條第十三條ニ違背シタル者ハ違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處スヘシ（全上改正）

第十六條　前條違警罪ノ處分ニ付シタルモノ其他不正ノ廉アルトキハ其情狀ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルヿアルヘシ

○湖上瀠船取締規則

明治十八年七月一日

○甲第百五號　明治十七年二本縣甲第二十一號布達湖上瀠船取締規則別冊ノ通改定候條此旨布達候事

但現今存在セル瀠船船体ハ追テ改造ノ期ニ至リ規則第二條ノ造船法規ニ據リ改造可致候事

（別冊）

瀠船取締規則

第一條　湖上ニ於テ瀠船ヲ以テ旅客物貨ノ運送ヲ營業セントスル者ハ本縣廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

但シ結社營業セントスルモノハ社則ヲ添フヘシ

第二條　瀠船ヲ新造セントスルトキハ本縣造船法規ニ據リ調製シタル船体仕樣帳ニ明細ナル圖面及ヒ瀠罐瀠機明細書ヲ添ヘ本縣廳ヘ願出許可ヲ受ケ竣工ノ上ハ本則第一號書式ニ照シ屆出檢査ヲ請フヘシ

但シ造船法規ハ警察本署ニ就キ閲覧スヘシ

第三條　造船工事中ハ時々檢査員ヲ差遣シ檢査セシメ若シ造船法規ニ照シ不完全ト見認ルトキハ改造

ヲ命シ又ハ新造許可ノ指令ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　瀠船ハ左ニ記列スル端艇其他所屬品ヲ整備スルコトアラサレハ航行スルヿヲ許サス

第壹　端艇ハ本則第二號表ニ適シ相當所屬品ヲ全備スルモノ

第貳　錨及ヒ錨鎖ハ本則第三號表ニ適シタルモノ

第三　桅ハ其取付堅牢ニシテ豫備ノ轉桅索ヲ船尾ニ備ヘタルモノ

第四　羅盤壹個救命浮子二個以上

但シ救命浮子ハ善良ニシテ廿四時間三十二磅ノ浮力アルモノ

第五　相當ノ消防器具

第六　汚水唧筒壹個以上

第七　瀠罐及ヒ機關ニ屬スル相當ノ附屬品及ヒ豫備品

第八　安全毎瓣罐火床面積ノ壹平方呎毎ニ貳分ノ一平方吋ノモノ二個ヲ備リ平生用ユル瀠力ニ對シ錘量ヲ定メ內壹個ハ外套幷ニ鎖鑰ヲ備ヘタルモノ

安全瓣ハ其封鎖シタルト否トヲ問ハス凡テ機關室ヨリ開キ得ヘキ裝置ヲ設ケ且ツ廢瀠管ノ設ケアルモノ

但シ安全瓣ノ發條ハ試驗適合ノモノニ限ルヘシ

第五條　船體又ハ瀠機瀠罐其他要部ノ修理若シクハ變更ヲ爲サントスルトキハ其箇所及ヒ破損ノ摸樣等詳細屆出着手シ竣工ノ上ハ更ニ屆出檢查ヲ受クヘシ

但シ修繕工事中ハ臨時檢查員ヲ差遣シ檢查セシムルヿアルヘシ

第六條　定期檢查ヲ請フモノハ遲クモ期限前二十日以內ニ本則第四號書式ニ照シ本縣廳ヘ願出ヘシ檢

査ニ就テノ準備ハ前以テ相達スヘシ

第七條　定期又ハ新造檢査ノ節ハ船主船長機關手等ヲ立會シメ相當檢査ノ上故障ナキモノハ安全瓣外檢套ニ封鎖シ本則第五號假檢査證書ヲ下附シ追テ第六號檢査證書ト引換ヘ交付スヘシ

第八條　定期檢査ノ外必要ト見認ル場合ニ於テハ臨時檢査員ヲシテ檢査ヲ爲サシメ船体瀘機等ニ故障アリト見認ルトキハ運航ヲ停止シ修繕ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　乘客ノ定員ハ船室ノ等級ニ據リ左ノ割合ヲ以テ定ムヘシ

但シ乘客ノ制限ハ本則第七號雛形ノ木票ヲ製シ本縣廳ノ檢印ヲ受ケ船内各室ニ掲クヘシ

上等室　壹坪ニ付（六尺四方）　大人四人

中等室　壹坪ニ付（仝）　大人六人

下等室　壹坪ニ付（仝）　大人十人

上甲板上ニ雨覆ヲ設ケ下等室ニ充ツルモノ

壹坪ニ付（六尺四方）　大人六人

小船ニシテ中等室ノ設ケナキモノ

上等室　壹坪ニ付（六尺四方）　大人六人

下等室　壹坪ニ付（仝）　大人十人

仝上甲板上ニ雨覆ヲ設ケ下等室ニ充ツルモノ

壹坪ニ付（六尺四方）　大人六人

第十條　各船ノ水脚ハ必ス載貨線ヨリ超ユヘカラス

第十一條　船内ニ於テ石炭油其他揮發性ノ油ヲ用ユヘカラス

但シ船体瀘機ニ必用ナル「テレピン」油ノ類ハ此限ニアラス

第十二條　航潮中他船ト先進競爭シ或ハ私ニ安全瓣ノ封緘ヲ開閉スルコトヲ禁ス

第十三條　運航中他船ト衝突シ或ハ暗礁ニ乘掛ケ其他船体瀘機等ニ破損ヲ生スル等ノ異變アルトキハ着港ノ上船長ヨリ其事實ヲ最寄警察署又ハ分署ヘ届

出尚ホ速ニ其景況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ本縣廳ヘ届出ヘシ

但シ難波ノ節ハ明治八年第六十六號布告内國船舶難波及漂流物取扱規則ニ據ルヘシ

第十四條　各船出發時間及ヒ乘客物貨ノ運賃並ニ船長機關手ノ氏名及ヒ免狀ノ種類等ハ豫テ本縣廳ヘ届出變更シタル時モ同樣届出ヘシ

第十五條　客引ヲ出シ又ハ人力車夫等ト馴合ヒ其他種々ノ手段ヲ以テ乘客ヲ誘引スルコトヲ禁ス

第十六條　運送問屋旅籠屋等ヘ手數料ヲ附與スルコトアルモ運賃定額ノ一割ヨリ超過スヘカラス

第十七條　瀨船乘客及ヒ乘載セシ物貨等ニ不審ト認ムルモノアルカ又ハ紛失品アルトキハ可成乘客物貨ノ上陸ヲ見合セ置キ着港所轄ノ警察署又ハ分署ヘ届出指揮ヲ受クヘシ（二十二年縣令第八十五號ヲ以テ改正）

第十八條　開廢業及ヒ造船廢船等ノ願書ニハ定繫港戶長ノ奥印ヲ受クヘシ

第十九條　官許ヲ得スシテ營業又ハ造船シ及ヒ本則第四條第拾條第拾壹條第拾貳條第拾三條第拾四條第拾五條第拾六條第拾七條ニ違背シタルモノハ違警罪トシ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ尚ホ情狀ニ據リ行政ノ處分ヲ以テ一ケ年以内其船ノ運航又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第廿條　運航及ヒ營業上ニ就テハ何人ノ所爲ト雖モ船主又ハ船長其責ニ任スヘシ

第一號

新造瀨船出來檢查願

瀨船

何々丸

右者豫テ御許可ヲ得造船竣工候ニ付何月何日何地ニ於テ出來形御檢查被成下度就テハ右御檢查濟ノ上ハ豫テ上願ノ通リ何地何港ノ間運航營業致度此

段願上候也

年月日

右

船主　何　某印

船長　何　某印

滋賀縣令何某殿

（定繫港戶長奧印）

（第一號）

端艇表

登簿噸數		數	長	幅	深	容積
二百四十噸ヨリ	第一	一四、	五、〇	二、二		九一、〇
	第二	二〇、	五、五、	二、七		一四五、二
百二十噸迄	二隻	惣	容	積		二三六、二
百二十噸ヨリ六十噸迄	一隻	一、四、	五、〇	二、二		九一、〇

（第三號）

錨及錨鎖表

噸數	錨數 大錨	錨數 挽錨	錨數 小錨	錨ノ量 大錨	錨ノ量 合量	錨ノ量 挽錨	錨ノ量 第一小錨	錨ノ量 第二小錨	錨鎖 最小ノ經	錨鎖 長	錨鎖 挽索 長	錨鎖 挽索 周圍	大索名長九十尋 周圍
				磅					吋	ファーゾム		吋	
五〇	二	一	一	三九二	七八四	八四	五六		一六/一一	一二〇	七五	五	三
七五	二	一	一	四七六	九五二	一四〇	五六		一六/一二	一二〇	七五	五/一二	三
一〇〇	二	一	一	五六〇	一一二〇	一六〇	八四		二六/一三	一三五	七五	五/一二	三
一二五	二	一	一	六四四	一二八八	一六八	八四		一六/一四	一六五	七五	七	三/一二
一五〇	二	一	一	七二八	一四五六	二二四	一一二		六/一五	一六五	七五	六/一二	四
一七五	二	一	一	八一二	一六二四	二五二	一一二		一	一六五	七五	六/一二	四
二〇〇	三	一	一	九二四	二六三二	二八〇	一四〇		一十六/一	一六五	七五	七	四
二五〇	三	一	一	一一二〇	三一九二	四二〇	一九六	八四	一十六/二	一九五	七五	七/一二	五

本表ノ噸數ハ滊船ハ総噸數ノ三分ノ二ヲ取ルヘシ且其五十噸未滿ハ本表ノ比例ニ據リ本船相當ノ錨鎖ヲ備フヘシ

(第四號)滊船何丸第何回御撿査濟

一本船々主氏名若クハ會社ノ名
一定繋場
一航路
一登簿噸數
一公稱馬力
一前期撿査ノ場所
一前期撿査證書有効期限 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄
一前期入渠又ハ陸上ケ撿査年月日
一前回滊船水壓試驗年月日

右ノ滊船當時何港碇泊若シクハ入渠(陸上ケ)中ニテ撿査用意相調候ニ付何年何月何日御出張御撿査被成下度此段奉願上候也

年月日

船主若シクハ船長 氏 名 印

滋賀縣令何某殿

第五

船舶撿査假證

番號	撿査ノ地
船名	登簿噸數
船主氏名	定繫場
航路	證書期限
公稱馬力	旅客上等
滊機種類	旅客中等
滊罐種類	旅客下等
滊壓	所屬品

前記ノ船舶明治何年何月何日撿査ノ上記載ノ航路航通ニ適當ナルヲ以テ此撿査證書ヲ附與スル者也

但此證書ハ本文記載ノ月日ヨリ三箇月限リ無効タルヘシ

第　六　號

船舶檢查

番號	船名	船主氏名	航路	公稱馬力	瀛機種類	瀛罐種類	瀛壓

檢查ノ地	登簿噸數	定繫場	證書期限	旅客上等	旅客中等	旅客下等	所屬品

船体檢查主任滋賀縣船舶檢查員
明治年月日　何　某　印

機關部檢查主任滋賀縣船舶檢查員
何　某　印

證書　號

前記ノ船舶明治何年何月何日檢查ノ上記載ノ航路航通ニ適當ナルノ報告ヲ得ルニ依リ西洋形船舶檢查規則ニ遵ヒ此證書ヲ附與スル者也

明治年月日　滋賀縣印

（第七號）雛形

下等之分　厚サ適宜但シ曲尺一尺

用材檜　竪二尺五寸　巾一尺

中等之分　面積三分ノ二

上等之分　全　四分ノ一

縣名烙印

何々丸　何等室
上甲板下等室
口乘客　何　人限

○甲第百六拾九號　明治十八年十二月十二日

今般本縣甲第百六十八號布達湖上漁船取締規則第十七條改正ニ付乘客ノ人名等記載スヘキ儀ハ當分大津盥津間及大津長濱間通航ノ漁船ニ限リ施行候條此旨布達候事

但本文ノ外通航ノ漁船ト雖モ臨時警察官吏ノ指揮ニ依リ施行セシムル儀モ可有之事

（參考）

○明治十四年十月甲第百六十二號

湖上ニ於テ旅客ノ乘航ヲ營業トナス漁船ノ儀ハ自今左ノ通リ可相心得此旨布達候事

但從前航行致來候漁船ニテ左項ニ抵觸スルモノハ爾後一ケ年以內ニ改正可致事

一甲板上最大ノ長サ六十尺（曲尺以下同之）未滿ノモノ

右今濱崎竪田浦以北ニ航スルヲ得ス

一同九十尺未滿ノモノ

右伊崎勝野以北ニ航スルヲ得ス

但伊崎勝野以北ト雖モ松原長濱間及ヒ松原盥津間ヲ長濱ヲ經テ往返スル小渡ニ限リ同長サ七十二尺以上ノモノヲ以テ渡航候義ハ苦シカラス

一龍骨ノ長サ六十尺未滿ノモノニシテ前兩項制限外ノ地ニ於テ定期ノ航通ニ非ラスシテ湖邊ノ游覽其他一時限リノ航通及ヒ內湖ト稱スル區域內ヲ限リ航通營業セントスル者ハ其時々願出許可ヲ受クヘシ（明治二十一年縣令第九十二號ヲ以テ追加）

○港川漁魚採藻泥取締規則　明治二十一年一月廿日

○縣令第十六號

明治十七年九月本縣甲第九十七號布達湖川漁魚採藻泥取締規則左ノ通改定ス

但明治十七年九月甲第百號布達ヲ除クノ外從前ノ布達々及指令等此規則ニ牴觸スルモノハ渾テ消滅トス

湖川漁魚採藻泥取締規則

第一條　管內湖川ニ於テ漁魚採藻泥ヲナサントスルモノハ都テ此規則ニ遵フヘシ

但湖川ニ聯絡セサル民有水面ハ此限リニ非ス

第二條　湖川漁魚採藻泥ノ業ヲ分ツテ二類トス

第一類

魚網魚簗流シ簀張リ網漬柴石漬

第二類

大網　中網　紗網　モロコ網　流シ網

カチ網　岩付網　鼓卷網　胴引網　根摺網

竹筒網　流シ釣漁　蜆取漁　貝曳漁

コブリ網　採藻泥　竿釣漁　鰌漁

投網　タツベ漁（一名モンドリ漁ウヘ）　鮎掛

打網　押網　掻網　猪漁

第三條　免許期限ヲ定ムル左ノ如シ

一第一類漬柴石漬及第二類ノ各業ハ一ケ年（自甲年四月至乙年三月）（廿一年縣令第七十三號ヲ以テ改正）限リ免許スヘシ

二第一類魚、網魚、網魚、簗、流シ簀、張網、ハ前（自一月至六月）後（自七月至十二月）二期ニ分チ免許スヘシ

第四條　前條第一項漬柴石漬ノ免許ヲ得ントスルモノハ三月（廿一年縣令第七十三號ヲ以テ改正）限同第二類ノ免許ヲ得ントスルモノハ種目員數ヲ記載シ其時々第二項ノ免許ヲ得ントスル種目間數場所等ヲ記載シ漁具裝置ノ圖面添付戶長ノ奥印及組合委員ノ連署ヲ要シ所管郡役所ヘ願出鑑札ヲ受クヘシ其組合委員ノ連署ナキ者ハ免許セス

但一時遊戲ノ爲メ一竿釣ヲナスハ此限リニ非ス

第五條　魚網魚網等他人ノ稼場ト入交リタルモノハ收方協議ノ上願出ツヘシ

第六條　免許鑑札ハ都テ他人ニ貸與シ又ハ賣買讓與スルヲ許サス

第七條　免許鑑札ヲ紛失シ又ハ代換リ改名轉居等ノ節ハ其旨所管郡役所ヘ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

但滿期若クハ廢業ノ節ハ速ニ返納スヘシ

第八條　第一類ノ漁魚ハ總テ別冊ニ定ムル免許個所並ニ間數坪數ヲ超過セスシテ左ノ各項ニ適合スルモノニ非レハ免許セス但雜魚鰌ノ構造ハ方言「カンス」「ウチマタ」「タゲ」ニ限ル且竪百間以上ニ及フモノハ免許セス（二十二年縣令第百二十九號ヲ以テ改正）

一鰌壺ニ用ユル簀ノ目ハ毎段元杭ヨリ起算シタル間數ニ應シ左ノ寸法ヨリ細少ナラシムヘカラス（廿二年縣令第二十號ヲ以テ（水涯）トアルヲ元杭ト改ム）

簀鰌五十間未滿　五分
同五十間以上百間未滿　六分
同百間以上二百間未滿　八分
同二百間以上三百間未滿　壹寸
同三百間以上　壹寸五分

網鰌（間數ニ拘ハラス）　方壹寸

雜魚鰌（間數ニ拘ハラス）　貳分五厘

築流シ簀

一勢田川ヲ除クノ外隔年ニ免許シ甲年免許セシ場

所ハ乙年免許セス

張網

一網目ハ方五分ヨリ細少ナラシムヘカラス

第九條　民有水面ニ於テ第一類ノ漁業ヲナサントスル者ハ都テ前條ノ制限ニ隨ヒ免許スヘシト雖其明治十七年甲第九十七號布達ニヨリ既ニ免許ヲ受ケ又ハ箇所數坪數等ヲ屆出テタル者ノ外ハ一切免許セス

第十條　張網鰌壺（二十一年縣令第七十三號ヲ以テ改正）ニ用ユル簀網ハ使用以前ニ所管郡役所ヘ願出檢査ヲ受クヘシ其檢査ヲ受ケサルモノハ使用スヘカラス

但破損シ修繕スルトキモ本條ニ據ルヘシ

第十一條　前條檢査ヲ受ケシ網ハ私ニ改造シ又ハ鰌築ノ構造ヲ漫リニ變換シ若クハ間數坪數等ヲ增延スヘカラス

第十二條　內湖入江及外湖ノ地元町村ハ左ノ特權ヲ有セシム然レモ湖川ニ拘ハラス從來稼來リ等ノ慣

例アルモノハ其慣例ニ依リ免許スルヿアルヘシ

第一　内潮入江等ハ其沿付町村ニ於テ免許ヲ受ケタル目標ヲ建設スヘシ

タル營業人之ヲ專ラニスルヲ得ヘシ

第二　外湖水涯ヨリ十間以内ハ其地元人民ニ於テ他ノ衆ニ先チ免許ヲ受クルヲ得ヘシ

第十三條　第一項ノ營業場所ハ別紙雛形ニ倣ヒ免許年月日種目間數坪數及稼人ノ住所姓名等ヲ詳記シタル目標ヲ建設スヘシ

但鰛網鰛竪間數ノ兩端ニ建設スヘシ

第十四條　第二條ニ揭クル種目外ノ漁魚ヲナサントスルモノハ其漁具ノ形狀寸法用法收益見込等ヲ詳記シ所管郡役所ヲ經テ願出ツヘシ

但水族蕃殖ニ妨害アリト認ムルトキハ免許セサルヘシ

第十五條　第一類漁魚上ニ必要ナル附屬漁具ハ第四條ニヨリ該營業出願ノ際其種目員數等ヲ詳記スヘシ若シ不相當ト見認ムルトキハ使用ヲ差止ムヘシ

第十六條　鰛壺内ニ於テ「タツヘ」「モントリ」ヲ用ヒ漁魚スルヲ許サス

第十七條　石濱鰯掛等ノ爲メ水中ニ移投セシ砂礫ハ漁期終ルノ後直ニ陸地ヘ運揚クヘシ

第十八條　都テ毒流ト稱シ石炭山椒皮其他魚毒ヲ用ヒ漁魚スルヲ禁ス

第十九條　採藻泥ハ每年六七兩月間其業ヲ禁ス

第二十條　漁魚採藻泥ノ爲メ通船ノ航路ヲ妨害スルヿヲ禁ス尤モ鰛簀等免許場所ノ航路ニ係ルモノハ相當ノ船通シヲ設クヘシ

第廿一條　第一類漁業免許場所ハ臨時吏員ヲ派シ檢查セシムヘシ

第廿二條　洪水霖雨又ハ其他ノ景狀ニ依リ水理ニ妨害アリト認ムルトキハ既ニ免許セシモノト雖モ臨時漁魚ヲ停止シ漁具ノ取拂ヲ命スルヿアルヘシ

第廿三條　漁業免許ハ其年實地ノ景況ニ依リ漁具魚種漁期漁場等ヲ特ニ制限シ又ハ禁止スルヿアルヘシ

第廿四條　鯉鯇鮭鱒ノ四種ニシテ未タ六寸（曲尺）ニ滿タサルモノ及五寸（曲尺）未滿ノ鯽ヲ捕獲スルヲ禁ス

第廿五條　禁漁場ハ勿論他ノ稼場ヘ立入リ漁魚採藻ヲ禁ス

泥ヲナスヲ禁ス

但鰀網鰀ハ元杭ヨリ横巾間數ノ兩端ヲ見通シタル區域内ヲ稼場トスヘシ尤モ壹ヲ數段ニ設クルモノハ順次每段横巾ノ兩端ヲ見通スヘキモノトス（二十二年縣令第二十號ヲ以テ水際元杭ヨリ水際トアルノ二字刪除）

第廿六條　無免許ニシテ漁魚採藻ヲナシ又ハ免許場所外ニ於テ私ニ第一類ノ漁魚ヲナスヲ禁ス

第廿七條　此規則第十三條及ヒ左ノ各款ニ觸レ說諭ノ上尙應セサルモノ又ハ第六條第十條第十一條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十五條第二十六條第二十七條ニ違背スルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ尙其事情ニ依リ行政ノ處分ヲ以テ壹ケ年以内其業ヲ停止スルコトアルヘシ

（二十八條　此規則第十三條ニ違ヒ說諭ニ從ハサル者及ヒ左ノ者ハ說諭ヲ爲サス直ニ科料ニ處ス）

一第二十二條第二十三條ニヨリ臨時漁魚ヲ停止シ又ハ特ニ制限シタル條件ニ違背シタルモノ

一免許期限ヲ過キ漁具ヲ撤セス若クハ漁具取拂ヲ拒ミ又ハ遷延シタルモノ

科料ニ處ス

漢賀縣布令第二十四號

明治廿一年一月廿日

又ハ特ニ制限シタル條件ニ違背シタルモノ

明治二十二年四月廿日

一第二十二條第二十三條ニヨリ臨時漁魚ヲ停止シ

一免許期限ヲ過キ漁具ヲ撤セス若クハ漁具取拂ヲ

目標雛形

何郡何村地先字何々

竪何間
横何間（或ハ）幾坪又ハ亘リ何間
川上何間
川下何間

稼人何村

何某

年　月　日免許

別冊

鰀、網鰀、簗、流シ簀、張網、免許鰀網鰀ノ部

個所

百八十九